

六稟倶報

NO. 24 1991・9・20

平成3年9月20日発行
発行 大阪府立北野高等学校内
六稟同窓会
〒532 淀川区新北野2-5-13
電話 06(303)5661代表
振替 大阪9-068025
六稟同窓会名簿刊行会
振替 大阪1-309004
編集 山本次郎・岸田知子・鎌田俊一
印刷 フジエフオート印刷
電話 0729(87)8254



佐伯祐三 ホテルレストラン

1925年 油彩15号

田中睦君（62期）所蔵

118周年総会

会場 日本綿業俱楽部

大阪市中央区備後町2丁目5番8号

☎ 06-231-4881

日時 11月2日(土)

2:30 PM 受付

3:00 PM 総会

4:00 PM パーティー開宴

(新人歓迎 立食パーティー・ビール飲み放題)

会費 5,000円 (但し、S62卒以降—卒業5年以内と)
(S9卒以前—75歳以上の方 — 無料) ※乞う出席通知

卓話



「めまい」

大阪大学医学部付属病院長

松永亨氏 (60期)

昭和4年兵庫県生まれ。北野中学、五高を経て、同29年大阪大学医学部卒。ドイツザル大学留学後、関西労災病院耳鼻咽喉科部長、アメリカバイラー大学助教授などを経て、同55年から大阪大学教授。

卓話者紹介

脳死者からの心臓、肝臓、腎(じん)臓移植が砂漠み段階といわれる大阪大病院のトップに就任したが、最も気がかりなのは93年(平成5年)度中に予定されている吹田キャンパスへの病院移転のこと、という。「患者さんに一時的に退院してもらったり、周辺病院に預けたり、医者だけでなく、看護師、事務部門一丸となった協力が大事なんです」。「院内の理解と納得」を繰り返す。

脳死肝移植なら国内初、心臓なら再開初の例となるが「大学の倫理委でG.O.サインを出したわけですから。そういうのがビシッと出してくれればね、これだけかがやらないわけないんだ…。大阪大の一種、運命というものを感じますよ」。

一方で、「いったん(移植を)やれば、他の患者さんの治療をやめてまで重慶の矢面に立たないかん。それでなかなか踏みきれないんでしょう」と現場の医師をおもんばかり「一つ一つ意見と実績を出していくことが大事」とも。

耳鼻科の開業医だった父の影響もあってこの道に。大阪大の耳鼻咽喉科は、めまいの起きた難病、メニエル病研究で知られる。この病気と耳の奥の「内リンパ」の水腫(しゅ)の関係を世界で初めて解剖で突き止めた故山川強四郎教授のもとで研究を深めた。

「移植とは一番縁遠い学問、医療かも知れない」が、「人の感情、味覚、嗅(きゅう)覚、平衡感覚など目に見えない心の問題を扱ういわばブレイン・サイエンス(神経科学)」の一つ。21世紀の大きなテーマだと思う」と話す。

妻の美子さんは自宅で開業、弟の義さんは奈良県立医大教授。「娘せき十人が耳鼻科の医師だよ」と豪快に笑う。

高校、大学でヨット、タグビーをやったが今は「読書で鍛錬するだけ」。

(山崎一夫 1990.10.25 毎日新聞「ひと」欄から)

ご挨拶

名譽会長就任にあたって



名譽会長・学校長

足立 勇

〈ご略歴〉昭和9年旧満州新京(現長春)市に生まれる。
(本籍地は鳥取県境港市)。昭和30年3月広島県立國泰寺高等学校卒業。同34年3月広島大教育学部高校理科卒業。同4月から、桜宮高等学校教諭、八尾高等学校教諭、平野高等学校教諭、東京星川高等学校教頭、門真高等学校教頭を経て、平成元年4月、門真高等学校校長。本年4月、本校校長としてご着任。専門教科は生物。

高校生急増のピーク時には、42学級二千余名の生徒を擁し、3年間に亘って本校教育の維持発展にご尽力され、今春勇退されました藤枝榮先生の後任として着任いたしました。

輝かしい歴史と伝統をもつ本校の校長に就任しましたことは、身に余る光栄でありますとともに、その責任の重さを痛感しているところです。118年の歴史の重さとともに、今日問われている教育の諸問題、とりわけ公立高校の社会的使命に係わって北野高校を位置付けるとき、責務の重大さにうちひしがれる思いを致しております。

本校の使命が、将来社会のあらゆる分野でリーダーとなる人材の育成にあると考えるとき、生徒諸君がより高度な教育を受けるに値する学力を身につけるとともに、人間的魅力と人望を備えグローバルな視野との確な時代認識をもって人類的課題に対処できる人間に育てて欲しいと願っているところです。さらには、国際化の進展とともに、世界に開かれた知識と教養を身につけることも必須の条件であると考えます。その意味においても、この7月、柔道部OB会の招待で来日されたアメリカ、ワシントン州ケントウッド高校のウイルソン校長との懇談は意義深く、両校の友好と親善を深めながら今後の具体的な交流の手立てを目下模索しているところです。

ここ10年来の懸案となっている校舎改築問題は、昨年度、保存を前提に耐震テスト等かなり綿密な調査が実施されました。調査結果に基づく今後の見通しについては、

府当局から何ら報告を受けていませんが、いずれ全面改築か保存改築かの選択を迫られる時期がまいります。この問題は、各方面のご意見を十分に拝聴して慎重に検討を進めてまいり所存です。学習環境づくりという観点から考えますと、機能的な施設設備と同等に校舎の備える美観もまた大切な教育メディアであるといえます。イタリアの中世の名建築が居並ぶ中で、4~5世紀前に建てた美しい建物が官公庁や銀行として立派に機能している姿を観る機会を得て、この問題に新たな思いを巡らしているところです。

平成5年には本校創立120周年を迎えます。本校の歴史の大切な節目として、北野高校に係わる全ての人にとって意義ある記念すべき年となるよう校内での協議を始めています。同窓会常任理事会でも既にご検討をいただいているところがありますが、記念の諸行事を同窓会と学校が一体となって実施できることを強く念願しています。従来にも増して、会員の皆様の一層のご協力とご支援を賜りたくお願い申し上げる次第です。

十三の雜踏を樹々で造ったこの学園では、今日も生徒たちが魂をぶつけ合いエネルギーを燃やして確実に成長しています。この若い後輩たちを励まし、ご指導いただすべく諸先輩のご来校を心からお待ちしています。最後になりましたが、六棟同窓会の益々の発展と会員諸氏のご活躍を祈念して、就任のご挨拶といたします。

東京六稜会第34回総会の報告

平成3年度東京六稜会総会が6月7日、丸の内、工業俱楽部に於て開催された。

総合司会63期岩木俊氏の開会の辞で幕を開け、東京六稜会河崎晃夫会長の挨拶に続き、大阪から総会のために上京された六稜会名譽会長足立堯母校校長、72期肥塚敏彰母校教頭が挨拶された。

卓話者として、72期佐藤勝昭君(東京農工大学教授、工学博士、専攻電子情報工学)が「スケッチで繰る世界の旅」と題して、学会等でヨーロッパ、アメリカ、中国

など世界各国を訪れた時に描いたスケッチ1000枚の中から100枚を選んでスライドで写し、旅の印象を話された。特に、スケッチと写真の違いースケッチは自分の見たいものを中心にしたズームになること、1枚のスケッチを描くために20分間凝視した風景は決して忘れないこと一を話され、佐藤君の素敵な絵心に感心しつつ、興味深く聞かせていただいた。

続いてのパーティーは、今年度当番の72期西野敏克と63期岩木俊氏の司会で、和やかに開かれた。恒例の新人紹介も行われ、最後に73期竹村二郎君が来年度当番の抱負を述べ、校歌齊唱で幕を閉じた。

西野敏克(72期)

昨年の総会から

卓話 外交と日本人

元中国大使 中江要介 (53期)

皆さん今日は、私が53期の中江要介です。私どもの同期に外交官になったのがと二人いるんですけれども、この二人は北野中学を卒業しておらんので四條でどっか行っちゃって、ですから卒業生で外交官だったのは私一人だと、いばっている訳ですけれども、北野中学北野高校の卒業生で外交官になったのは私どもの期に三人いても上にも下にもなかなか見当たらない。非常に珍しい53期だということを、ひとつ覚えといいていただきたいと思います。ところで、私に何か話をしろということですが、「外交と日本人」なんて自分が日本人のくせに人ごとみたいなことを題につけてますけれども、言いたいことはですね、簡単なんです。21世紀の半ばごろに、もし今ままだと日本は滅びてしまうぞということを私は言いたいんです。

私は、外交官として40年間仕事をして、わずかながらの知識と経験をもってみておりますとですね、やっぱりこれはこのままだと恐らく間違いなく21世紀の半ばには日本は滅びると。で、今日お集まりの皆さんにお苦いですから21世紀の半ばまで生き延びられると思いますけれど、私はもうだめだと思っています。で、生き延びられた方は、21世紀の半ばになって、日本が隆々と栄えてれば、私のお墓の前に来て「お前、まちがつとったぞ」と、こう言っていただければ結構ですし、案の定滅びたらですね、「やっぱり、あなたの言うとおりでした」と言っていただいても結構なんです。だけど、そんなことにならないようにするには、本日ただ今からなさなきゃならん事がたくさんある、ということを私は言いたいんです。

言うなれば、国際化されたとか国際人だとか、勝手な言葉が行き交ってますけれども、日本人も日本という國も、特に日本の政治家も、政治家と言えばですね、きのう同期の者が集まったとき、「お前あした政治家の悪口を言うだらうけれども中山太郎の悪口だけ言うなよ。後援会の人がおるからね」と言われたんです。僕はそんなこと容赦致しませんので、外務大臣であろうが何であろうが、今の政治家もマスコミも本当に国際的な視野というのか認識というのか、そういうものに欠けていると思うんです。そのために迷惑を蒙っているのが、ほかでもない国民なんですけれども、それはおいおい時間があれば申し上げますし、ゆっくり聞いていただければいいんですけども。シンガポールに、リカンューという首相がいるんですね。ご承知かも知れませんが、この人は中国系の人で、イギリスの大学で開校以来の大秀才、後にも先にもこんな秀才はないといわれている人なんですが、このリカンュー首相が立派なシンガポールという

国を造ってからですね、引退するというのでヨーロッパをこの間訪れたんです。西ドイツに行ったときにインターナショナルヘラルドトライビューンという英語の新聞の特派員がリカンュー首相にインタビューした記事が、今年の5月28日に出ているんですね。

念のため申し上げますと、その特派員がリカンュー首相に、ヨーロッパではブルバチョフが出て来て米ソもデタントでだんだん核軍縮から軍縮に進んでNATOからも米軍は手を引いていくことになりそうだ。アメリカ軍がヨーロッパからだんだん減って緊張緩和になるのはいいけれども、その傾向はきっとアジアにも及んでアジアの米軍のプレゼンスというのもこれから減少して行くだろう。そういう傾向に対して、リカンューさん、あなたどう思いますか、とこう質問したらですね。リカンューは「趨勢としてはそうなるかもしれませんけども、その事は自分としては歓迎しない。」と、こう言っているんですね。なぜ歓迎しないかというと、アメリカの軍事力がアジアからだんだん引いて行くと、その後に日本の軍事力が出てくることを恐れるんだと、これが非常に心配だと、こう言っているんです。その特派員が、そんなこと言うけれども、日本の人はこの前の戦争にこりごりして再び軍事大国にならないと、海外派兵はしない、最近どうか知りませんんですけどね、しないということを誓っているんだから日本の軍事力が出てくることはないはずじゃないですか、とこう言ったら、そこから先が、私、全く同感なんですけどね、リカンューが何と言ったかというとね、オールダージェネレイションについてはその通りだと。しかし、ヤンガージェネレイションについては自分は必ずしも確かでない、と言ってるんですね。今日はヤンガージェネレイションの方ばかりですから、皆さん、本当に確かでないかどうかお考えいただかなきゃいかんです。私はオールダージェネレイションで二度とそういうことはしないということについては、信念をもっているんですけど、日本のヤンガージェネレイションについては、必ずしもそれははっきりしない。これは日本とドイツと非常に違うところだと。ドイツではですね、この前の戦争、特にナチスのいろんな仕業については克明にこれを国民に教えてですね、その非を反省して、これからはヨーロッパでドイツというのは平和を愛する安定勢力になるんだと、こういう教育をしている。ところが日本ではどうもそうではないようだと、リカンューは言っているんですね。そしてドイツのシュミットという前の首相が、述べた言葉を引用しますね。シュミットが、あるときアジアを歴訪した。朝鮮半島は北も南もそれから中国、フィリピン、タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシアと、この辺のまわりを回って、それぞれの国のリーダーと会ったけれども、どのリーダーもですよ、日本がフレンド、友達とは思ってなかった。日本をフレンドと思っているリーダーにはお目にかけなかった。そのことはニュージーランドやオーストラリアについても同じであったと、どうも日本はアジアでは孤立しているように思う。ますます孤立しているように思う、とこうشم

ットが言ったと。これをリカンューが聞いて、自分も全くそうなんだ、そう思うんだと。日本はかつてのように unloved country 愛されない国になりつつあると自分は思うと、こう言っているんですね。

こんな重要な記事が出ているのに、日本の新聞記者は誰も読んでないのか、読んでもきまりが悪くて出きないのかは知りませんけれども、そういうことを国民に知らせようとしているんですよ。いかにマスコミが怠けているかということにはっきりしていると思うんですね。ここにマスコミ関係の方がおられたら幸いなんです。反省していただきたいと思うんです。いいかげんなコメントと評論家が言っているんじゃないですよ。シュミットとかリカンューとか、日本のどの政治家もかなわないような国際政治家がですね、日本に来たときは、何だかベルサイユ宮殿を真似した金きらきらの田中角栄流の迎賓館か何かに入れられてですね、秒刻みの護衛が付いてバーッと走って、御馳走食べて宮中晩餐会があつたりなんかして、ああ、日本はすばらしいと、もう東京なんかあの焼け野原からどうしてこんなに復興したんだと、我々は日本に学ばなければならぬと、ありがとうございました、と帰って行くんですよね。ほとんどがお世辞なんですよ、当たり前なんですけれど。日本人はそれを聞いていい気になって、そうだろう、我々が努力したからこれだけ復興したんだ、なにかという気持ちでいるんですね。ところが、彼らはそう言ってお世辞を言って日本を去って、ヨーロッパで二人の指導者が会ったときには、今言ったような会話をしている訳ですね。そういうことを日本人人はみんな知らなきやいけない。

やっぱりマスコミが世界中の情報にいろいろ目を配って、これは日本人は知ってなきやならんと思ったらきちんと報道しなきやいけないのに、どの新聞もどの雑誌も全然報道していないんですね。外務省には勿論リカンューの西ヨーロッパ歴訪の記録は全部入っておりまして、今のような発言も全部あるんです。そういうことを新聞記者諸君にブリーフしたって、そんな役人の言うことなんかすぐに記事にするもんか、という顔をしてそのまま眠っていると思うんですね。そういうマスマディアに毒されているのが今の日本人だと私は思うんです。つまり不勉強か、怠け者か、どっちかなんです。知っていても出さないのは怠け者ですね、知らないなら不勉強なんです。どちらにしてもろくなことはないんです。

この過去の事をドイツではきちんと反省しているのに日本は曖昧だとリカンューが言っている点ですね。大体、日本の政治家はですね、先程ご紹介いただきましたアジア局長をしておりましたけれども、1971年から78年まで7年半アジア局で仕事をして、日中正常化から日中平和友好条約まで仕事をしたんですが、その間に仕えた外務大臣は七人ですよ。平均しますと一人の外務大臣は1年ですよ。どんなに何万という票が俺の後ろにあるんだぞとおいぱりになっても、1年や2年で外国の、例えばグロムイコみたいに30年も35年も外務大臣をやった人達と対等の外相会談なんかできるわけないんですよ。です

から新聞にですね、日ソ外相会談なんて活字で書くとみんな大きな字でやるから、やってるなんでお思いなるでしょう。わたしの目から見ると、日ソ外相会談、そのところは大きな活字、日の所は小さい活字、そういう外相会談がうまくいかどうかというそういうことなんです。本当を言うと。ところが、日本では大臣にはお抱えの新聞記者がいましてね、提灯持ちみたいにまわりを鉛筆なめ走り歩いているのがいるでしょう、テレビに映ってますよね。自分が仕えている大臣のことを批判するような顔をして、とこさんは批判できないんですよ。この人達は毎晩飲ませもらっていますからね。そういう記事しか出て来ないんです。そういう記事にならないように本当に對等の外相会談にするために、誰が努力しているかというと外務官僚が努力しているんですね。というふうな鬱憤はもう一杯ここまでつまっているんです。今年の5月に、私は中国に参りましたが、3年前に中国を離任するときには、蘆溝橋の抗日戦争記念館というのに行きました。蘆溝橋といつてもヤンガージェネレイションは知らない人がいるらしい。この前、日本の大学生がソウル大学へ行って、ソウル大学の先生が一緒に勉強しようと言つて、朝鮮半島は日本の植民地だったことがあるんだから、いろいろ勉強することがあるよと言つたら、日本の大学生はびっくりして、「えっ、先生、朝鮮半島は日本の植民地だったことがありますか」と聞いたというんです。それでソウル大学の先生はびっくりしたというんです。しかし、そういう大学生も既に出てるんですね。本当の話として。ですから蘆溝橋なんて知らない人はさらだろうと思うんです。蘆溝橋は本当は名月で有名なんですけれども、日本と中国との関係では日中戦争の発端になった蘆溝橋事件というのがあって、橋のたもとに抗日戦争記念館というのがあるんです。北京にいらっしゃいましたらぜひ訪ねて下さい。私が行ったのは土曜日の午前だったんですけど、雨が降っていましたけれど、一杯いるんです、人が。小中学生ですよ。先生に連れられて、私も切符を買って小中学生と一緒に行列して中へ入って行つたんです。そして見ましたらね、大きな展覧館というのが二つあってガラスのケースがずーっと置いてあって、新聞の切り抜きとか写真とかですね、わんさとあるのは全部日本の軍国主義の残酷行為の記事であつたり写真であつたり証拠品なんですね。見るとへこんだ水筒だとかですね、弾で穴が開いた鉄兜とか、そんなのが置いてある訳ですよ。軍刀だとかぼろぼろの洋服とか、そんなものが一杯あって、子供達はそれを見ながらね、自分のお父さんはこんな目にあったのか、自分のじいさんはこんな目にあって死んだんだろうか、自分のおばさんは辱められたというけど、こういうことをされたんだろうかと、いろいろなのがあるんです。それが第一展覧館です。第二展覧館もまた同じようなのが時代を追つて置いてあるんですね。その中に一つ、100人斬りを達成した何とか少尉と何とか中尉が、上着を脱いで白い鉢巻きしてヒゲをはしてですね、そして右手に抜き身の日本刀、左手に繩を持って、繩の先には5つか

6つの中国人の頭がぶら下がっているんですね。で、二人は笑っているんです。日本の新聞でこの写真と似たようなものを私は小学校のころ見た覚えがあるんです。そういうのを見てですね、前線の兵隊さんへといって、慰問文を書きました。私どもは、寒い寒い満州で頑張っておられる兵隊さん、ご苦労様。一人でも多くの敵の首をしとめてくださいなんて書いたんです。その慰問文を入れた慰問袋は前線に行って、兵隊さんはそれを見て、どんな気持ちでしたかね。そういう時代をちょっと反省しましてね、その自分が、中国の大使をして、日中関係の仕事を一生懸命して、今OBになってこんなところへ来て。時の流れというのは不思議なものだなと思って、そして、この展覧館を出ようとしましたらね、その出口のところに大きな写真のパネルがあるんですよ。何かと思ったら、周恩来・毛沢東・姫鶴飛の中国の要人の写真、こちらがわは田中角栄・大平正芳・二階堂進と、当時の総理・外務大臣・官房長官、向こうは主席・総理・外務大臣。この田中・周恩来会談の写真ですね、日中両方の当事者が非常に明るい笑顔ですね、握手をしてこれから日本と中国は仲良くするんだという、いわゆる1972年9月29日の日中共同声明調印直後の会談の写真が出ているんですね。子供達も今まで残酷な場面をしっかりと頭にたたき込んだうえで、しかし日本と中国はこれからは子々孫々友好協力で行くんだと声明を出したんだということを教えるされる訳です。その横に今度はその4分の1ぐらいのパネルに活字ばかり書いてあるんです。何かと思ったら日本国憲法第9条だけがクローズアップして書いてあるんですね。日本という国はもう戦争をしない国になったんですということを教えているんです。この二つをちゃんと見て、子供達は抗日戦争記念館から出て行くんですね。その大きなパネルの上には赤い横断幕がありましてね、なんて書いてあるかというと「済んだことは忘れずに将来の戒めにしましょう」ということが書いてあるんです。全くそのとおりのことを抗日記念館は物語っているんですね。その記念館を出るときに、子供達が本当にそういうふうにうけとめたかどうかは分かりません。しかし、学生がどう受け止めるかは別としても、中国の指導者が、どういうことを次の世代に期待しているかということがその抗日戦争記念館を見ただけで、わたしは非常に感銘を受けたんです。よく理解ができたと思います。それにひきかえて、日本の小・中学生は一体何を勉強させてもらっているんでしょうね。ということを反省してですね、私は身の毛がよだつ思いがしたんです。

中国は21世紀の半ばを目標に今の改革・解放を進めていく訳ですね、21世紀の半ばにまぎりなりにも改革・解放が進めば、そのころは多分15億から16億ぐらいの人口でしょう。あの広い広大な地域で一人当たりのGDPが4000ドル前後の15億の民が日本の隣国にさらに先進工業国にむけて努力している姿を想像しますと、その横にいる日本は今なんの教育も受けない、過去の反省もない、将来の戒めにするにもそれもない人達がただ年を取って、日本の中堅にいてですね、科学技術は世界でも一番だなん

て、そんなことばっかり誇りに思っていたって、とても中国には太刀打ちできなくなるというのが、21世紀の半ばに日本が滅びるという第一の理由なんです。それからですね、先程ちょっと触れましたけれども、日本は戦争しない国になりましたと、そして子々孫々の友好を約束した。共産主義の国と自由主義の国が子々孫々の約束をするなんて世界でも例がないんですね。日中条約しかないんです。アメリカのように、共産主義の国はぶっ倒せと、それが倒れれば迎え入れてやるというのは、たくさんあるんです。逆も真なんです。しかし、お前は共産主義のままでいい、俺は自由主義のままでいいと、しかしその違いを子々孫々ですよ、10年20年ではないんです、子々孫々友好で行きましょうなんてそんな条約はいまだかつて日中平和友好条約以外にはないんです。そういう誇りすらも誰も持たないんですね。気がつかないのか、呑気というのか、ですね。そういう有様ですから、中東の今度の貢献策を見ましてもね、中東貢献策というけれども、最初は私はあれはブッシュ大統領に対する貢献策をやっているのかと思ったんですね。だってあれは、ブッシュ大統領が勝手に兵を出してですね、あとでつけを回して来たというのが真相だと私は思うんですよ。そうではないということをはっきり聞いたことがあります。だって安全保障理事会の決議決議とみんな言っていますけどね、一つ一つ読んでご覧なさい。そんなサウジアラビアに何十億と兵を出してですね、その金を国連加盟国が分担しなきゃならんなんてそんなものはどこにも出て来ないんですよ。それを決議に基づいてとか、決議の履行を何とかするとか、なんとか言って、この辺から中山大臣が出てくるんですけど、そういうことを言っていますね、何をしようとしているんだか分からぬ。

中東の問題というのは、ちょうどミッテラン大統領が提案しているようにですね、今のイラクがクエートを踏みにじったということだけを取り上げたうて、勝負にならんのですよ、土俵が違うんですね。そんな土俵はいくらでもありますよ、アメリカがパナマに乗り込んで、ノルテガを拉致したのだって一つの土俵になり得るんですね、ソ連がアフガニスタンに出兵したんだって、アメリカがベトナムに出兵したんだって、ベトナムがカンボジアに出兵した、そんなものは一杯ある訳ですよ。なにを今クエートの事だけをワワワア言うのか。するとやっぱりそれは石油のためだというふうにみんな思うんですね。石油のためということは中東のためではないんですよ。中東の安定と繁栄というのは石油だけではないんですね、何千年來旧約聖書以来のユダヤ人とパレスチナ人の争いというのがずっとある訳です。そういうユダヤ人の心、パレスチナ人の心というものを理解しないでですね、中東の包括的解決なんて出来っこないんです。日本ではそういうことに通暁しているという人は本当に数えるほどしかないはずです。それを訳のわからんのが寄ってたかってですね、ピストルもっていってもいいけれど自動小銃はいいだの悪いだのね、憲法はかつてこういう解釈があつたけれど今の解釈は違うとか、そんなことばかり言

って、何がそれが中東の貢献策かと言いたいんです。

フランスがあのミッテラン提案をしたときに、国会で外務大臣が何と言ったかというと、いやあれは日本が言っていることと同じです。まずイラクがクエートから撤兵しろ、これも日本が言っていることです。その後でアメリカがサウジから撤兵して、クエートに選挙で新しい政府を作る、これも日本が言っている通りです。平和的に解決する、これ全部日本が言っているとおりです。新しいものはありません、と言っているでしょう。嘘です、それは。フランスはイギリスとともに中東では敵を手を汚しているんですね。ですから、あそこでは悪いことを一杯した国なんです。イラクに沢山武器を輸出してですね、その武器で攻撃されるのを恐れている国なんです。だから、彼らは中東で手を汚しているだけに中東のことが分かっているんです。日本は手を汚していないから、きっと仲を取り持つて、いい解決策ができるだろうと、外交努力をすべきだなんて、野党の人人が言うでしょう。とんでもない、手を汚していないものには語る資格がないぐらいに、アラブの問題というのは本当に複雑な問題です。私もエジプトにおりまして、体験しましたけれども、イスラム教の世界というのはほんとの別世界ですね。ですから、そういう中東和平貢献策とかなんとか言つても、フランスが言うことを日本が仮に言つても、重みが全然違うんです。そういうことをわきまえないと。アラブの人達というのはすごい人達ですよ。我々以上に長い歴史をもつて、アラブの商人と言われますけれども、とにかく砂漠で何にもないところで生き延びて来た人達なんですね。そういうふうな心を理解しないで、ただ石油でお世話になっているからなんかせにやいかんと、ここで武力で圧迫しないとますます図に乗って悪いことされちゃ困ると、悪いことというのは中東の石油資源を牛耳って不当な価格で売りつけられるのは困ると、それだけのことでしょう。なにも彼らの立場のことを考えてない訳ではないんですね。そういう計算・打算だけの外交というのが成功するかというと、私は成功しないと思うんです。私の日本が滅びる第二の問題点は、つまり人間が、国でも政府でも政治家でも、みんなそうです。マスコミも無論もっとそうですけれども、心の世界を軽んじたのでは絶対に相互理解はできないし、相手を説得することはできないと思うんです。人間にはですね、私が言うまでもない、北野高校で一生懸命先生が教えておられると思うんです。私どものころは北野中学でみんな教えてくださった。人間には心と物と両面があるんだと。物質的な富、あるいは快樂、そう言ったものだけではないんだと。人間には大事な心の世界がある、ということですね。それは何も日本人に限らないんです。世界中みんなそうなんです。國もそうです。民族もそうですね。宗教もそうだと思うんです。だからそういう心の世界に対する理解というのが関心というのが、今の日本を見ているとだんだんだんだん薄れて行っていることを私は憂うるんです。隣の人がものを落としたらハッと取つてあげる、そういう心すらも忘れかけている最近の日本の社会

風潮というのはですね、憂うべきものです。その積み重ねが政治家で、心がない。マスコミにも心がない。ですから、日本という國の对外姿勢に心がないんですよ。

政治家が権謀術数に忙しいのなら、マスコミの連中が行ってですね、そういうのを国民に教えてくれないといけないんですけども。なすべきことをみんなしてないんですよ。これを是正するためにはどうしたらいいかというと、結局、日本人一人一人がですね、やっぱりここで目覚めなきゃいかん、と私は思うんです。めざめて何をするかというと、もっと立派な政治家を送らないとダメですよ。そんな選挙区の選挙のことばっかりあるいは党利党略ばかり派閥の争いばかり、そのためいろいろなものを上手に口先だけで言ってですね、答弁がくるくる変わる。根っこがないから変わるんですよ。とにかく答弁がどう変わつても通せばいいと、そういうことです。こういう法案を出すことによって、中東の平和と安定と繁栄に役立つことになっているのかというところが抽象論ばかりでよく勉強していない、よく勉強していないんならそんな法案出さないがいいと、出す以上はよく勉強して出しなさいと、もし私がその場にいたらそういう言ふんですけれども、それが言えないので六種同窓会の総会に来て皆さんに訴えて、今言ったってどうせだから、手遅れですから、21世紀の半ばまであと60年ある、その60年の前の30年ぐらいでしっかりした教育をして、後の30年ぐらいではしっかりした教育を受けた日本人が政治・外交の中核に出て来て、そして21世紀に日本が滅びることをくい止めてもらわなきゃいけない。そのためには、まず、過ぎ去った過去のことについてよく勉強する、そしてそれを将来の戒めにする。第二は、人間には物と心の両面があって、物にばっかり今関心が移ろうとしているこの風潮を早くくい止めてですね、心の大しさというものにたいして目を開かなきゃいけない。そういう教育は何も北野高校だけではなくて、家庭からですよ、三つ子の魂、小さい子供からですね、道端に咲いている花を愛でたり、あるいは道端で苦しんでいる虫や動物を可愛がったり、哀れに思つたりという、そういう情緒は家庭の教育・環境から出てくるところが多いと思うんです。そういうところから心の世界というものを知って、学校に入ってからは、知識としてはやっぱり昭和前期ですね。つまり、終戦後、昭和天皇が人間宣言される前の大元帥陛下であった頃のことはほとんどのマスコミは教えてくれなかったでしょう。勇気がない、自信がない。そこがドイツと違うところだとショミットは言うわけですね。ですから事実に直面して、それを正確に把握し評価して、それに基づいて将来の政策を立てるという、そういう手立てが全然できない。これは非常に問題だと私は思つているんです。過去のことをしっかりと勉強して、心の世界を物の世界と同じく薫まない、そういう教育を今日この後からすぐ始めれば、21世紀に日本が滅びるのをくい止めることができるんじやないかというのが、私の訴えたかったことでございます。

御清聴ありがとうございました。

会 務 報 告

常任理事会（平成3年4月22日）於清交社

出席者 鴻池会長、福島副会長、足立名誉会長、大山、奥田、西脇、植崎、山本、清原、木村、岸田、上田各常任理事、学校から肥塚教頭（72期）、事務局から平、鎌田、内藤

1. 業務計画

2. 会計報告

3. 会則の再検討について

理事会（平成3年5月17日）於清交社

出席者 鴻池会長、足立名誉会長、常任理事、理事、計約40名出席

1. 平成2年度決算報告及び平成3年度予算案

2. 平成3年度総会について

11月2日(土)綿業会館 14:30~18:00 会費5千円

卓話者 松永 亨 阪大病院院長（60期）

常任理事会（平成3年6月3日）於校長室

出席者 足立名誉会長、奥田、緒方、日高、西脇、

山本、丸野、岸田、木村、上田各常任理事、学校から肥塚教頭、事務局から平、鎌田

1. 120周年記念総会について

運営組織の早期結成、総会場の選定を懸案事項として確認

2. 会報の発送形態および体裁について再審議

3. 各年度理事の見直しと組織強化について

常任理事会（平成3年7月1日）於校長室

出席者 足立名誉会長、奥田、緒方、西脇、植崎、日高、山本、丸野、清原、木村、岸田、西村各常任理事、学校から肥塚教頭、事務局から平、鎌田、内藤

1. 会報について

体裁は従来どおりとする。発送形態については編集委員に一任

2. 120周年記念総会について

記念品、会場、等について具体的に検討

3. 全国大会出場の部に対する援助金審議

会 計

報 告

平成2年度 六稟同窓会一般会計報告

科 目	2年度予算	2年度決算	備 考
収 入 の 部	円	円	
1. 繰 年 度 損 越 金	1,011,647	1,011,647	
2. 入 会 金 収 入	1,940,000	1,904,000	1904人×1000円
3. 年 会 費 収 入	8,200,000	8,785,000	1394人×2000円
4. 広 告 収 入	100,000	0	
5. 論 文 収 入	750,000	925,000	185人×5000円
6. 寄 付 金 収 入	10,000	198,000	
7. 利 息 収 入	10,000	49,156	
8. 税 収 入	6	0	
取 入 合 計	12,021,647	12,475,803	
支 出 の 部	円	円	
(1) 運 賀 費	*5,450,000	4,792,412	
1. 人 件 費	1,000,000	1,000,000	・超過分子賃料 より支給
2. 旅 費・交通 費	300,000	236,700	
3. 通 信 費	150,000	119,769	
4. 印 刷 費	300,000	300,000	・超過分子賃料 より支給
5. 会 議 費	5,000,000	392,715	
6. 総 会 費	2,300,000	1,920,321	
7. 飲 市 費	500,000	500,000	・超過分子賃料 より支給
8. 税 費	400,000	320,827	
(2) 金 値 発 行 費	*4,860,000	*4,835,655	
1. 税 金 収 費	60,000	60,000	
2. 印 刷 費	2,400,000	2,400,000	・超過分子賃料 より支給
3. 運 送 費	2,400,000	2,375,655	
4. 税 費	0	0	
(3) 旧 因 留 整 球 治 方 費	0	998,803	
(4) 予 備 費	*1,211,647	*787,643	
内訳 (1)~(4)人件費		104,000	
(1)~4 印刷、事務用品		44,816	
(1)~17 税券費		198,179	
(2)~2 会報印刷費		440,648	
(5) 他会計へ支出	* 500,000	* 500,000	
1. 基 金 獲 立 会 計	500,000	500,000	
2. 名 諸 別 会 計	0	0	
支 出 合 計	12,021,647	11,914,513	
次 年 度 損 越 金	0	961,290	

平成2年度 六稟同窓会名簿特別会計報告

科 目	予 算	決 算	備 考
収 入 の 部	円	円	
1. 前 年 度 損 越 金	7,164,470	7,164,470	
2. 名 帰 先 収 入	100,000	100,000	17箇 × 4000
3. 広 告 収 入	0	0	
4. 利 息 収 入	70,000	70,000	
5. 税 収 入	0	21,230	
6. 一般会計より受入	0	0	
取 入 合 計	7,334,470	7,670,167	
支 出 の 部	円	円	
1. 税 費	0	0	
2. 印 刷 費	0	0	超過分子 賃料より 支給
3. 運 送 費	10,000	10,000	
4. 更 新 費	1,200,000	1,001,745	超過分子 賃料より 支給
5. 税 費	1,000	1,000	
6. 基金積立会計へ支出	5,000,000	5,000,000	
7. 予 備 費	1,123,470	2,270	
内訳 3 運 送 費		1,830	
5 税 費		440	
支 出 合 計	7,334,470	6,015,015	
次 年 度 損 越 金	0	1,655,172	

名簿在庫状況 前年度残145冊、売上47冊、寄附31冊、次年度損越87冊

平成2年度 六稟同窓会基金会計報告

科 目	決 算	備 考
収 入 の 部	円	
1. 前 年 度 損 越 金	57,823,629	大和銀行指定金貯金
2. 利 息	4,043,585	大和銀行定期預金
3. 新規積立金	5,500,000	新規定期預金
取 入 合 計	67,367,214	
支 出 合 計	0	
次 年 度 損 越 金	67,367,214	大和銀行定期預金、新規定期預金

以上のとおり平成2年度六稟同窓会基金会計報告をいたします。

平成3年4月17日

六稟同窓会長 鴻 池 雄 一

本会計の正確であることを認めます。

平成3年4月17日

六稟同窓会監査 清 井 高 三

六稟同窓会監査 木 田 主 先

「真空地帯」「青年の環」——第一次戦後派

野間 宏さん死去

野間 宏(45期)



「暗い絵」「真空地帯」「青年の環」などで知られる第一次戦後派を代表する作家で、狹山裁判、フロンガス規制など社会問題にも積極的な発言を続けていた野間宏(のま・ひろし)さんが2日午後10時38分、食道がんのため東京都港区の病院で亡くなった。75歳だった。葬儀・告別式は家族の希望で行わない。密葬は4日正午、同区虎の門3の25の1の光明寺会館で。自宅は文京区小石川3の13の3。喪主は妻光子(みつこ)さん。

大正4年神戸市生まれ、電気技師の父は親鸞の教えを奉ずる在家仏教の一派をたてて布教活動をしていた。北野中学校を経て昭和7年、旧制三高文科丙類に入学。桑原(竹之内)静雄、富士正晴と知り合い、詩人、竹内勝太郎の知遇を得る。

京都大仏文科に入学後は非合法組織と交流、神戸の労働者運動にもかかわる。同13年京大卒業後、大阪市役所に就職、被差別部落関係の仕事に携わり大きな刺激を受けた。

戦後、小説「暗い絵」で文壇にデビュー。平野謙、宮本百合子らに評価され、椎名麟三、埴谷雄高らとともに、第一次戦後派と称されるようになる。

21年日本共産党入党。「近代文学」第二次同人に加わり、椎名、埴谷らと「夜の会」を丸山真男、杉浦明平らと「未来の会」を結成するなど活発な芸術活動を行う。

27年、長編小説「真空地帯」を刊行、軍国主義を批判した作品として評価され、毎日出版文化賞を受賞。

戦後に書き出し中絶していた「青年の環」全6部5巻を数度の中断をはさみながらも46年に完成させ、谷崎潤一郎賞を受賞した。作品は戦前の大阪を舞台に部落解放運動、左翼運動に携わった群像を描いた壮大な全体小説。

48年には「青年の環」などの文学活動でアジア・アフリカ作家会議のロータス賞を受賞。共産党は39年に除名されたが、社会的発言は晩年まで続け、狹山事件の真相に迫る「狹山裁判」(51年)や被差別部落問題「歎異抄」「親鸞」など仏教に取り組んだ評論などを発表した。

環境保護問題へも深い关心を持ち、原子力発電に反対をする声明を出し、最近ではオゾン層を破壊するフロンガスへの規制を求めるなどの活動を行っていた。

(毎日新聞 1991. 1. 3 朝刊から転載)

「赤と黒」など仏文学名訳

生島達一氏死去

生島達一(35期)



スタンダールの「赤と黒」、ラファイエット夫人「クレーヴの奥方」、ボーウォール「第二の性」などフランス文学の数々の名訳や隨筆などで知られ、わが国を代表する仏文学者で京都大名誉教授の生島達一(いくしま・りょういち)氏が23日午前5時10分、胃がんのため京都市中京区竹屋町通土手町東入末丸町284の自宅で死去した。86歳。葬儀・告別式は25日午前11時、同市左京区淨土寺真如町82の2の換骨堂で。喪主は養女の香苗(かなえ)さん。

大阪生まれ。1929年、京大文学部文学科フランス文学専攻卒。神戸商大教授などを経て、47年、三高教授。京大教養部教授から64年文学部教授に移った。68年の定年退官後は関西学院大教授を務めた。75年には勲三等旭日中綬章、80年度の日本芸術院賞を受けた。

三歳上の故・伊吹武彦氏、同年の故・桑原武夫氏とともに「京大仏文の三羽ガラス」ともいわれた。仏文学の中でも特に写実主義小説、心理小説の研究に力を注ぎ、その成果は「フランス小説の『探究』」などにまとめられている。

「赤と黒」は桑原氏との共訳で33年、フランス本国でのスタンダール再評価からほどど時を置かずに刊行され、当時の文学界に大きな影響を与えた。このほか同じスタンダールの「パルムの僧院」、フローベール「感情教育」、デュマ「三銃士」、ジード「法王の抜穴」、サルトル「悪魔と神」など数多くの翻訳があり、なかでもラファイエット夫人の「クレーヴの奥方」は翻訳文学の古典の一つに数えられている。また名文家としても知られ、隨筆集に「水中花」「鴨准日々」などがある。

杉本秀太郎・国際日本文化研究センター教授(仏文学)の話 フランス文学の翻訳だけでなく、「フランス小説の『探究』」など優れた研究書を出されている。これらの刊行に際しては、関係文献をすべて読破されていた。「人と同じ事をいうのはイヤ、が口ぐせで、どの文体も新しい試みに満ち、谷崎潤一郎や宇野千代らの作家にも影響を与えた。また、平安期から明治期までの文学にも詳しく「日本の小説」という名著もある。趣味では観世流能楽のシテ方で、精通しておられた。

(毎日新聞 1991. 8. 24 朝刊から転載)

嘉納治五郎の書 ありがとう!!

禁書他

昨年3月、北野高校の柔道部顧問、柔道芳雄教頭が全国高体連の派遣で米国ワシントン州ケントウッド高に行き、柔道を指導。嘉納氏の書「自強共榮」をウィルソン校長から「北野高の柔道場に」と受け取った。北野高では昨年6月、同校柔道部OBらが集まり、書の掲額式で同校長の招待を提案。柔道部OBから寄付を募り、今月6日から8日間の招待が実現した。8日に同校を訪れたウィルソン校長夫妻は、柔道部などの誠意を賛美、「武道で身につけた哲學を生かして」と生徒らを激励し、教職員とも交流を深めた。

(1991. 7. 10 毎日)

北野歴史

題字 東 梶二元校長



—連載第14回—

教育課程の変遷と その周辺

博木 正祐

阪急梅田駅で「じゅうさん」までの切符を買ってから36年間が経ってしまった。

与えられた校務分掌が時間割係、全く何もわからない新米を育てていただいたのが田中博さん、列授業編成の資料を渡され、何でもよいから作ってみよと言われてもうまく作れるわけもない。すると何回も試していたらそのうち旨く組めるようになるよ、と言われ、その気になつたのが教務に居据わるようになったきっかけである。昭和42年までこの係をしていたが一寸他へ行けと言う事で、43年から49年まで進路部へ（47年までは進学対策委員会）50年に教務へ復帰し、そのまま、退職となった。

学校における学習即ち教科・科目および、その内容は文部省から出される学習指導要領によって示される基準に基いて、各学校で教育課程を作成しそれによって実施される。この学習指導要領が新制高校発足以来4回改訂されているが、一昨年には平成6年度から実施される新学習指導要領が示され、現在各校においては、大阪府高等学校教育審議会の答申を待ちながら新教育課程の作成にとりかかっている状態である。

指導要領の改訂による教育課程の変遷を中心に学校の状況等を少し記してみよう。

昭和30年度まで

通学区 昭和25年度新制高校最初の入学に当り、大阪府下を13の地区に分割して通学区を定めた。本校は大阪市内第1地区（北、大淀、東淀川、西淀川の4区）に属することになった。昭和26年度入学生から、クラス定員50名9学級（450名）が昭和36年度まで続く。

教育課程 すべての生徒に履修させなければならない教科科目（必修科目という）は、国語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ各3単位、一般社会4単位、保健3単位、体育9単位である。

選択科目

国語：Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ（全員）漢文Ⅰ、Ⅱ（全員）漢文Ⅲは希望者のみ（各2単位）

社会：日本史、世界史、人文地理、各5単位、文系志望者3科目理系志望者2科目を選択。

数学：幾何、解析Ⅰ、Ⅱ各6、解析Ⅰ、幾何は全員

理科：1年生物5、地学5、生物3+家2から1つ、

生3+家2は女子のみ

2年以降、文系志望は物理、化学、生物各5から

1科目、理系志望は物理5と化学5の2科目

英語：全員15単位履修（必修ではない）

家庭：家庭Ⅰ、Ⅱ、食物、被服、手芸

卒業の認定は85単位以上修得であるから、選択科目例えば英語5単位不認定であっても卒業は認められた。一番大変だったのは1年理科の選択、生物3+家庭2の希望者が少なく、教務担当者は合格した女子を集め事情説明をして選択者を募るに大変な苦労をしていたようだ。

当時は類型等はおいてないから組編成は各学年とも男女均等に編成するのであるが、大体男子300名女子150名の割合なので体育実技の授業は3クラス同時展開となり、女子は45名弱男子は50名を超える編成。

昭和31年度以降

昭和31年 学習指導要領の改訂により教科科目の呼称が変わり又単位数にも変更あり。次の通り（）内の数字は単位数。

国語：甲(9)、乙(6)、漢文(2~6)

社会：社会、日本史、世界史、人文地理何れも(3~5)

数学：Ⅰ(9)、Ⅱ(3)、Ⅲ(5)

理科：物理、化学、生物、地学(3~5)

他は変らず。

必修科目は国語甲、社会科は社会を含めて3科目以上、数学Ⅰ、理科は2科目以上、保健2、体育9、芸術は2単位以上が望ましい。

この改訂により類型を設けることになる。A型（文系）、B型（家庭選択）、C型（理系）。

1年次は全類型共通、国語甲3、乙2、漢文2、社会4、数学Ⅰ6、理科生物5、地学5、生物3+家2から1つ選択、保健1体育3、芸術2、英語5の33単位。

2年から類型A型：2年次国語7、社会は日本史世界史、人文地理3科目とも2ずつ、数学Ⅰ3、Ⅱ3、化学3、体育3、保健1、芸術家庭から1科目2、英語5、計33単位。

3年次、国語7、社会は2年の継続7（世界史3）数学Ⅰ5、化学2、体育3、芸術2、英語5、計31単位。B型2年次国語5（漢文なし）社会は3科目から2科目選択4、数学Ⅰ3、化学3、体育3、保健1、芸術2、家庭一般2、被服2、食物2、英語5、計32単位。

3年次、国語5、社会は2年次の継続（世界史3）、数学Ⅰ3、化学2、体育3、芸術2、被服3、食物4、英語5、計31か32単位。

C型2年次、社会はBと同じ、理科は物理2、化学3、他はAと同じ、計33単位。

3年次、社会はBと同じ継続（世界史3）理科は物理3、化学2、他はAと同じ、計31又は32単位。

教育課程に類型は設けたが、クラス編成は全学年とも類型別編成はしない。可能な限り固定クラスで授業、止むを得ない場合同時展開の別授業を行う。

この教育課程は昭和37年度まで。

昭和33年度から教頭任命される（職階制の教頭ではない）33年34年は勤評斗争で大いに揺れたのであるが、これまで何回か記されているので、こゝでは割愛するが、自分がハンスト決行中の生徒の教室での協力には大変感謝している。

昭和37年3月 北野高校の礎を築かれた林 校長が退職された。先生は校内の環境整備にも力を注がれ特に校内緑化では通用門側の桜並木は見事で、私共に安らぎを与えてくれます。その林先生も今春不帰の客となられました。心からご冥福をお祈りいたします。

1957年10月ソ連初の人工衛星スプートニク1号が打上げられてから、ソ連とアメリカが次々と人工衛星、人工惑星を打上げ61年4月12日ソ連が初めて人間衛星ヴォストーク1号を打上げ、地球を一周して生還した。この宇宙ショーの影響か1年生の理科選択で地学選択者が増加し、それまで1クラスであったのが2クラスになった。

昭和37年 戦後のベビーブームによる生徒急増期に入り新入生は10学級500名になった。当分増加が続く事から本館1階の音楽室、2階の化学準備室、実験室、3階の書道室を玄関前の新館に移し本館内に普通教室を確保した。又本館1階の現在女子ロッカールームとして使用している2教室も普通教室として使用することになった。

昭和38年 新入生11クラス 550名。

この年から通学区の改編、学習指導要領の改訂が行なわれた。

学区の改編 府教委発表の主旨を記すと、13年来続いた13学区制が、人口移動で各学区の収容力がひどく不均衡になっており、来年は“終戦っ子”の高校進学でさらにこの不均衡さを増すものとみて、6・3・3制の発足以来の基本原則だった学区制をこの急増を機会に大きく改めるのがねらいである。この学区改編により13学区から5学区制になった。本校の属する第一学区とは大阪市内の北、大淀、東淀川、西淀川の4区と池田、豊中、箕面、吹田、茨木、高槻の各市、豊能、三島の各郡が入る北大阪一帯の地域である。この地域には府立12校市立2校計14校が含まれる。

指導要領の改訂 改訂のねらいの1つとして、時代の進展に即応するようにすることとしている。即ち世界はますます時間的にも空間的にも縮少し科学技術をはじめとして各方面における進歩発達はとどまるところを知らない。教育は時代とともに進み、時代に先じなければならぬ以上高等学校の教育課程においてもそれに即応するところがなければならないのは当然である。各教科・科目的構成にしても、それらの内容についてもこのような時代の要請を一段と考慮することにした。（文部省指導要領解説）

必修科目 （数字は本校の単位数）

国語：現代国語8、古典乙I 6

社会：倫理社会2、政治経済2、日本史4、世界史A 3
又はB 5、地理B 4

数学：I 6、II B 6

理科：物理A 3又はB 5、化学B 4、生物4、地学2

保健体育：保健2、体育男子9、女子7

芸術：2科目4

外国語：1科目9以上、英語B 17

家庭：女子家庭一般4

選択科目

国語：古典乙II（学校選択3又は4）

数学：数III 5又は6

以上の通り殆んど全科目必修ともいえる。特にこの度の改訂による最大の変更は女子に対して家庭科を必修とした事である。

適当に授業時数については34単位時間を標準とし、原則として38単位時間をこえないようとするとなっている。

この改訂に基いて3つの類型を設置。

A型（家庭科選択）、B型（文系）、C型（理系）

1年次、共通、現国3、古乙I 2、地理B 4、数I 6、生物4、地学2、体育男子4女子2、芸術2、英語B 6、家庭一般（女子）

2年次、現国2、古典乙I 4、倫理社会2、化学B 2、保健1、体育3、英語B 5、芸術2（B、C女子は0）、家庭一般2（女子）が共通、他にA型世界史B 3、数II B 4、物理A 3、B型世界史B 3、数II B 6、物理A 3、C型世界史A 3、数II B 6、物理B 3

3年次、共通部分は現国3、政治経済2、日本史4、化学B 2、保健1、体育2、芸術2（女子）、英語B 6

A型：古典乙II 3、世界史2、数III 2、家庭4女子、

他に選択として地理、数II B、数III、化B、生物各2から2年次A型の者は数II Bを他の者は数IIIを又男子は更に上記選択科目から4単位を選択すること。

B型：古典乙II 4、世界史2、数III 5他に男子は化B、生物、芸術各2から1科目選択。

C型：古典乙II 3、数III 6、物理B 2、他に男子は世界史、地理B、化学B、生物各2から1科目選択。

女子は家庭一般が必修となったため男子と比較して体育2単位減、又B型C型では選択科目を受講することができない。

昭和39年 2年生の数学（B型C型）と英語（全員）の授業を能力別編成で実施することになった。能力別と言っても2段階に分けて実施した。英語科では効果なく、生徒に不満を生むとの判断で1年限りで中止、以後実施しないことになった。数学科は類型別に2段階で実施したが生徒間の能力差があった事から効果はあったと思っている。以後も大まかな分け方ではあるが継続した。類型別の授業は現在も実施している。

昭和40年 全学年11クラス生徒総数1650名のマンモス校となる。3年生に初めての試みではあるが類型別クラス編成を実施することになった。ところが2年次から3年次になる時の教科登録でC型にいた生徒でB型に変更を申し出た者が多數出た。教務部としてはコースの変更是一切認めない方針であるから希望通りB型へという訳にはいかん。そこで協議の末新しい類型を設けて取容することにした。この新設類型をA'型という。A'型の

教育課程はA型の数学を数Ⅲ5単位とし、男子も芸術を履修すること他の教科はA型と同じとした。従って他の類型より1単位時間多い34単位時間となった。このようにしてスタートした類型別クラス編成はA型(女子のみ)

1、A'型(男女混合)1、B型(男子組と女子組)各2、C型男女混合組1 男子組4であった。類型別クラス編成によって、殆んどの授業がクラス単位で行われ、教室の移動が少なくなり落着いて学習できる効果はあった。一方男子組女子組と分離した事に関する不満はあった。以後3年生の類型別クラス編成は継続された。

昭和41年度入試要項が從来と変わり各大学が学部ごとに入試科目を指定したのである。従来は科目数だけを指定していた。新教育課程によって社会科、理科の全科目必修となつたのだから全科目修得する筈である。従ってどの科目を指定しても対応し得る筈だと言う事らしい。一例を示すと東北大学文学部は理科に物理を指定した。

昭和41年 生徒の増加もとまり減少傾向となり新入生は10クラス500名となった。

浦野校長着任(39年)以来検討されてきた修学旅行問題(男子も参加)は一応の案が纏まり、2年生から3年生になる春休みに2泊3日で実施することになった。

3~6通りの案(コース)を作る。

遠足と同様クラス別にコースを選ぶか個人で希望するコースを選ぶ。

参加は自由である。

物見遊山ではなく目的をもつこと。

かくして第1回目の修学旅行は42年3月山陰方面と北陸路の2コースで実施された。

山陰方面:出雲、三瓶山、松江、鳥取砂丘

4クラスの希望者168名参加

北陸路:金沢、能登半島西岸

7クラスの希望者312名参加

多人数のため2班に分け日程をずらせて実施

女子は殆んど参加、クラスにより参加率にかなりの差あり。

以後クラスを解体して本人が希望したコースに参加する形態となる。コースは大体4方面、参加者も一方向70人~150人位。50年度の2年生が汽船を利用して学年全体で実施してから何となく学年全体で行動するようになった。現在は行く方面は同じであるが現地ではクラス単位で行動している。なお実施時期は万国博以来12月の期末考査後になっている。

教科本登録において、新2年のAコース希望者が非常に少ない(17名)。Bコースと比較して異なるのは数学が3年間で5時間少ない(その分は家庭科)だけであるのに、その理由として考えられるのは学校側の説明が不十分である、生徒側の被害意識(Aコースは就職コースという)、上級生からの意見を鵜呑みにする等いろいろ考えられる、コースを決定するに当って、自分の道筋に係わる事なので、十分に考えた上で決定すべきである。

昭和42年 類型をA、B、CからB₁、B₂、B₃に改めた。類型名はあっても中身に殆んど変化なし。B₁女

子のみ家庭科選択、B₂文系、B₃理系、B₁とB₂の差は前のAとBの差とならない。以後B₁コース選択者は20名前後となり3年生の類型別クラス編成はB₁+B₃、男子の形となった。

昭和44年度の学園紛争を経て、本校の卒業式は卒業証書授与式となり又45年度からは類型別クラス編成はしないことになった。各クラスに各類型の者が居る、授業時は列授業が多くなる。教務の係(学級編成・時間割担当)は年度末・年度始は大変だ。

昭和47年10月1日付朝日新聞は公立高校の学区改編について大阪府教委の決定を次のように報じている。「来春から全日制普通科高校の通学区を現在の5つの大学区から9つの中学区に改めることを決めた。高校・大学進学者の急増は、特定の有名高校に集中する傾向を強めているため、①高校間格差の増大、②中学での受験準備のための過度の学習負担、③高校と地域との結合の弱まりの3点を解消することを目的とした学区改編である。大阪府の現行学区は、①淀川以北、②淀川南岸、③東大阪、④南河内、⑤泉州の5区に分けられていた。これに対し新学区は東大阪地区がそのまま残され他の4学区をそれぞれ2分した。これで中学卒業者に対する普通科の生徒収容率は9学区とも均等に近づくよう調整された。調整措置は全学区にわたっており、調整にあてられた高校数は公立76校のうち36校である」(百年史より) 北野は第1学区に属し大阪市内4区(ただし東淀川区の新御堂筋線の西側、東側は第2学区)と豊中、池田、箕面市と豊能郡。本校は調整となつたため東淀川区の東部からは本校を受験可能、調整数は60名、即ち全合格者の中に調整区(東淀川区東部)出身者は60名まで入ってもよいということであつて、必ず60名合格させるということではない。

昭和48年 上記の様に9学区制の第1回入学者は450人(クラス定員45人10学級)5学区制の昨年と比較すると阪急千里山線、京都線方面からの生徒約140人が居ない。昭和45年に学習指導要領の改訂が示され本年から実施されることになった。

前回と名称を変更した科目:古典乙Ⅱ→古典Ⅱ、世界史はA、Bを無くする、理科は4科目ともI、IIとする。必修科目は次の通り。

現代国語、古典Ⅰ乙、倫理社会、政治経済及び日本史、世界史、地理の3科目のうちから2科目、数学Ⅰ、理科は物理Ⅰ、化学Ⅰ、生物Ⅰ、地学Ⅰの4科目のうちから2科目、保健及び体育(男子は11単以上、うち格技70時間以上)芸術、女子については家庭一般4単位。

前回の改訂に比べると必修科目が少なくなった。生徒の多様に適応する教育課程を編成しやすくなるためである。今回も類型を設けることになりⅠ型(文系)、Ⅱ型(理系)とすることになった。教育課程は次の通り。

1・2年は共通(数学は単位数)。

1年:現代国語2、古典Ⅰ乙3、地理A3、数学Ⅰ6、生物Ⅰ3、地学Ⅰ2、体育男子4女子2、保健1、芸術2、英語B6、家庭一般女子2、計32単位。

2年：現代国語2、古典Ⅰ乙3、倫理社会2、世界史2、単位時間、教育活動を補完充実する（補完）ための時間を2単位時間、合計週34単位時間とすると定めたのである。この補完に適合するのは、学校行事等で欠けた授業（但し行事日例遠足等は適合しない）、生徒会活動等であり、教科科目の授業として使ってはならないとした。本校の場合補完に適合する時間数が少ないため、初年度（1年）は幾回演習と英語演習の時間にあてた。

3年：Ⅰ・Ⅱ型共通科目、現代国語3、古典Ⅱ2、政治経済2、数学Ⅲ6、体育3、英語B5、家庭一般女子2、計32単位。
Ⅰ型：日本史4、世界史3、物理Ⅱ、化学Ⅱ、生物Ⅱ、地学Ⅱから2科目4又は1科目4、計11単位。

Ⅱ型：日本史3、世界史2、物理Ⅱ及び化学Ⅱ各3の6、計11単位。

3年次のクラス編成は類型別ではないが、数学、理科等の授業は類型別である。

今回の改訂には、全ての生徒にクラブ活動の経験を得させるようにするとともに、これに充てる時間を確保すること、となっており俗に必修クラブと呼んでいる。指導要領によると「クラブは学年やホームルームの所属を離れて共通の興味や関心をもつ生徒をもって組織することをたてまえとし、次のいずれかに属する活動を行う。(1)文化的な活動、(2)体育的な活動、(3)生産的な活動。全生徒はいずれかのクラブに所属すること、各教科科目の単なる補習、一部の生徒を対象とする選手養成などのための活動とならないようにすること」かくして、文化的クラブ12、体育的クラブ9を設定して開始するのであるが初年度、2年度まではグランド、教室、堤防等を使って何とか実施して来たが3学年同時には到底不可能な状態が予測されるに至り3年生は体育的活動は一切なし、Ⅰ型の生徒に対しては国語科の協力を得てゼミ形式9講座を開設。生徒の選択に任することにした。

ゼミ初年度の講座には「古典拾い読み」「うひ山ぶみ」「老子の人と思想」等がみられる。Ⅱ型の生徒には日本史の授業が3単位しかないため日本史の補充にあてた。

昭和55年 中学卒業生の増加により今年度の新入学生はクラス定員47名12学級となり、定員564名に対し志願者数560名、1名受験辞退があったため559名受験前例のない定員割れとなったため全員合格とした。入学はしたけれど担任団をはじめ一致協力して指導に当ったにも拘らず数名脱落、悲しい現実である。

56年以降も12学級が続いたため57年には36学級となり本館内に収容不能となるため3階建て第2新館を建造、1階普通教室3、2階3階に家庭科教室、本館内家庭科教室を定期制職員室に3階定期制職員室を普通教室2室に改装、新館竣工55年8月。

昭和57年 53年8月に公示された学習指導要領の施行が本年からである。「ゆとりある教育」「特色ある学校造り」「勤労体験学習」等を前面に大幅に改訂された。

(1)全日制の課程における各学年の適当たりの授業時は32単位時間を標準とするとなった。従来は34単位時間を標準とし原則として38単位時間をこえないことであった。

適當たり2単位時間の余裕が生ずる。この時間は各学校で適宜工夫して利用すればよい学校裁量の時間である。大阪府教委は大阪府高等学校教育審議会の答申に基いて、教科科目の授業30単位時間、ホームルームとクラブ各1

(II)教育課程（教科科目）の改訂

必修科目と標準単位は次の通りである。（標準単位を下らないものとする）

(1)国語Ⅰ4、現代社会4、数学Ⅰ4、理科Ⅰ4、保健2、体育男子11女子7

(2)芸術4、家庭一般女子4

前回の改訂に比べても必修科目が少なくなった。ますます多様化する生徒に対し、生徒の進路適性に適応するよう多様な選択科目を設けるとか、類型を設けてその中に選択を取り入れるとかいろいろ考えられる。本校の場合は類型を設けてその中の選択（従来とあまり変化はない）を設けることにした。

Ⅰ型（文系） Ⅱ型（理系）

各類型の3年間に履修する単位数は次の通り

Ⅰ型：国語16、社会16、数学14

理科12、保健2、体育男11女子7、英語15、家庭一般女4

Ⅱ型：国語13、社会12、数学17、理科16、他はⅠ型と同じ

1、2年は大体共通、3年次の教育課程は類型によりかなり差があることからクラス編成を類型別編成にすることになった。編成は、

Ⅰ型、Ⅱ型、Ⅰ型女子十Ⅱ型男子

の3種類（類型の男女人数により）。

昭和62年度から「補完」の時間を授業に取り込むこととし、1年は数学と英語各1、2年は国語と理科各1、3年は最初から選択授業を行うこととしⅠ型の生徒は数学理科4科目、英語から1科目2単時間と、Ⅱ型の生徒に国語、社会5科目、英語から1科目2単位時間を選択することに決定した。後年少し手直しさしたが現行の教育課程表を次ページに示す。

参考までに戦前の指導要領の流れについて北野百年史から引用させていただく。

「明治35年2月6日に公布された「中学校教授要目」が最初である。「中学校教授要目」というのは「中学校令」32年2月7日)「中学校令施行規則」(34年3月5日)とともに今後の中学校行政の方針を確立したものである。「中学校教授要目」に定められた学科に修身、国語・漢文・外國語、歴史、地理、数学、博物、物理・化学、法制・経済、図画、唱歌、体操の12科であり、「本要目実施上注意」として「中学校ニ於ケル教授ハ常ニ調育ト相待チテ高等普通教育ノ目的ヲ達セんコトヲ期スヘシ」と規定して、中学校の性格を実業的性格から全く離れた普通教育を施す所と限定したのである。

教育課程（1・2年）

	1年	2年	I型		II型
国語	I 5	II 5			
現代社会	4				
日本史		4			
世界史		4			
地理		4			
数学 I	6				
代数幾何		3			
基礎解析		3			
理科 I	4				
物理		2			
化學		2			
生物学		2			
地学		2			
体育・保健	男4 女2 1	男4、女2			1
芸術	2	2			
英語	I 6	II 3	II C 2		
家庭一般	女2	女2			
計	32	32			

教育課程（3年）

	I型	II型
現代文	3	4
古典	4	△
日本史	2	4
世界史	4	△
地理	2	4
倫理	2	4
政治経済	2	4
微分積分	△	3
確率統計	3	3
物理	4	4
化學	4	8
生物学	4	4
地学	4	△
体育	3	3
英語 II	2	△
英語 II B	3	3
計	30+△2	30+△2

昭和6年1月20日文部省訓令第2号により「中学校令施行規則改正の要旨並びに施行上の注意事項」が、ついで2月7日同省訓令第5号によって「中学校教授要目の改正」が発せられた。改正の要旨は、明治34年に現行施行規則が制定されて以来30年間学校数二百四十余校（約8万8千人）から五百五十余校（約34万人）へと近時著しい跡顯著なること、近年もっぱら上級学校の入学準備に流れれるなど人格修養が等間にされていること、また卒業後上級学校進学は約1/3にすぎず大部分が卒業とともに

に社会の実務につく状態であること、これらの諸点から現行制度の如く多数の学科を一様に学修せしめることは実情に合わないとして、ここに改めて中学校における高等普通教育の本旨を明らかにし、かつ其の学科課程を改善して中学校教育の職能の全きを期そうとするものであつた。

法制・経済が公民科、博物、物理・化学を総合して理科へ、外國語には従来の英語、独語、仏語に加えて支那語が、新たに作業科を設けて園芸、工作、その他の作業を課すことになった。勤労の尊重である。』

57年改訂の勤労体験学習と似ています。

『昭和12年3月27日文部省は「国体観念、日本精神を根本として学問、教育刷新の方途を講ずる」ために設置された教育刷新評議会の答申に基き、「中学校教授要目」の改正を行つた。ここで改正されたのは、修身、公民科、国語漢文、歴史、地理の各学科であったが昭和12年度においては旧教科書を使用するも新教授要目の趣旨を参考して教授すべく求められ、翌年からは新要目に従って編集され、検定を受けた教科書にきりかえられることになった。この教授要目の改正、検定教科書へのきりかえは中学校における教育内容に一大転換をもたらすのであつた。4月15日、府下中学校長会で、加藤視学官より教授要目改正の趣旨要領について次のような説示があった。

「従来、ともすれば個人主義的自由主義的になりたりし教育の基調を樹て直し、努めて我國体に基き奉公の精神を強調し、我國特有の教育主義にかへるべし」そのまま日中戦争、第2次世界大戦への道を進むことになったのである。』

昭和59年から生徒急増期対策としての学級増問題が取り上げられ始めた。一時は本校も分校設置（老朽校舎である5校が対象）、4学級増等取り沙汰され、真剣にその問題点の討議を重ねていたが60年5月本校に2学級増となることが決定した。2学級増となると普通教室6とその他教室が必要となる。いろいろ検討した結果プレハブ校舎で凌ぐことになった。プレハブ校舎には空調を取付ける。かくして62年度から3年間は1学年14学級672名となりビッグの平成元年度には学級数42、生徒数2016名（定員）の大マンモス校となった。続いて生徒数は急減期に入り平成2年度は1学級減13学級、学級定員も2名減の46名計598名、今年度に更に1学級減12学級、学級定員45名計540名、来年度以降は減学級はあっても増学級はあり得ない。生徒1学級減に対して教員は2名減となる。現在教員数78名。

府教委は促進人事の方針を示し今年度を含めて3年間で完行するという、その方針とは

(1) 同一校に10年以上勤続している者

(2) 新採用以来4年以上同一校に勤務している者

今春は希望者も含めてではあるが9名が転出した。何故同一校に長く居てはいけないのだろうか。腰を落着けて教育に専念するのが良くないのか。各学校ともそうなるように、そういう学校にするように努力すべきであって画一的にきめつけるとは全くもってけしからんと思う。

(エゴだといわれることは判っている)。昭和50年頃鹿児島県のある高校から見えた先生から「伝統を生徒にどう教えたら良いか」と質問された。聞いてみると鹿児島県では全員10年で転出することになっているとの事、私は「伝統は教えるものではないし教えられるものでもない」と答えたが、本校の場合、本館で生活していれば自然と身につくのではないかと思っている。若い先生方へのお願い、北野高校を新北野高校にはしないように。

今までに出会った先生方、生徒諸君、忘れ得ない方々は大勢います。私を育てて下さった方々です。有難うございました。

はかもとまさかず先生 略歴

昭和6年2月鳥取県に生まれる。18年鳥取県立鳥取一中入学(旧制)、23年同校卒業、鳥取県立鳥取一高編入、24年同校卒業(新制)、広島大学理学部数学科入学。28年同学卒業。大学院理学研究科数学専攻入学、30年同学修士課程修了。同年4月、大阪府立北野高校数学科教諭として着任、平成3年3月同校を定年退職。現在、本校特別講師。

在職中は、ラグビー、男子バスケットボール、野球各部の顧問をつとめられ、特に昭和33年の男子バスケットボール部インターハイ出場、昭和62年のラグビー部全国大会出場には現役顧問として立ち会われた。昭和55年から卸退職まで教務主任。

大学合格者一覧表

(3.5.2 現在)

國立	男	女	計	九 州 大 学	2	1	3	東 邦 大 学	1	1	近 畿 大 学	16	11	27	大 阪 背 山 短	2	2	
北海道大学	4	1	5	佐賀大学	1	1	1	東洋大学	1	1	振興大学	3	6	9	大阪学院短	2	2	
旭川医科大学	1	1	2	佐賀医科大学	1	1	1	日本大学	4	4	相愛大学	2	2	2	大阪女子学院短	1	1	
東北大 学	6	6	12	宮崎医科大学	1	1	1	日本女子大学	1	1	帝都山学院大学	4	4	4	大阪女子短	1	1	
山形大 学	1	1	2	鹿児島大学	1	1	1	法政大学	1	1	梅花女子大学	2	2	2	大谷女子短	1	1	
筑波大 学	3	3	6	琉球大学	9	9	明治大学	7	7	阪南大学	1	1	1	関西外国语短	3	3		
国書館情報大学	1	1	2	合 計	24	16	20	明治学院大学	1	1	桃山学院大学	2	4	6	金鶴短	2	2	
宇都宮大 学	1	1	2	公 立 男女	1	1	1	立教大学	1	1	英知大学	1	1	1	聖母被昇天学院女短	1	1	
千葉大 学	1	1	2	東京都市大	1	1	1	早稲田大学	33	2	35	大手前女子大学	2	2	2	帝国女子短	2	2
東京大 学	9	2	11	東京都立附属医大	1	1	1	金沢医科大学	1	1	関西学院大学	47	69	116	中南女子大短	2	2	
東京学芸大学	1	1	2	都留文科大学	1	1	2	愛知医科大学	1	1	甲子園大学	1	1	2	特戸学院女子短	1	1	
東京工業大学	3	3	6	岐阜薬科大学	2	1	3	南山大学	1	1	甲南大学	10	17	27	神戸常盤短	1	1	
電気通信大学	1	1	2	愛知県立大学	1	1	1	専修医療保健衛生大	1	1	甲南女子大学	6	6	6	松蔭女子学院短	5	5	
一橋大 学	3	2	5	名古屋市立大学	1	1	2	名城大学	1	1	特戸薬学生女子大学	1	1	1	武蔵川女子大短	2	2	
横浜国大	2	1	3	京都文立	3	3	3	大谷大学	1	1	神戸学院大学	1	3	4	帝都山短	1	1	
新潟大 学	1	1	2	京都府立大学	5	3	8	京都外国语大学	6	6	神戸芸術工科大学	1	1	1	合 計	63	63	
金沢大 学	2	2	4	京都府立医科大学	1	1	1	京都産業大学	1	4	5	神戸文学院大学	11	11	11	準 大 学 等 男女	計	
福井大 学	1	1	2	大阪女子大学	7	7	7	京都女子大学	20	20	神戸女子大学	12	12	12	防衛医科学校	3	2	
信州大 学	3	1	4	大阪府立大学	12	6	18	京都精華大学	4	4	神戸医療大学	22	22	22	氣象大学	1	1	
静岡大 学	1	1	2	神戸市立国際大学	28	6	34	京都産業芸術大学	1	1	松蔭女子学院大学	6	6	6	防衛大学	2	2	
名古屋大 学	3	3	6	姫路工業大学	6	7	13	京都橘女子大学	1	1	銀河女子大学	1	1	1	航空保安大学	1	1	
三重大 学	1	1	2	奈良県立医科大学	4	4	4	京都藝術大学	4	9	13	姫路独協大学	1	1	1	合 計	6	2
滋賀大 学	2	1	3	福井山立医科大学	1	1	1	同志社大学	87	39	126	兵庫医科学校	2	2	4	専修学校等 男女	計	
群馬医科大	2	2	4	広島女子大学	1	1	1	同志社女子大学	20	20	武庫川女子大学	12	12	12	二年生ビジョナリ	1	1	
京都大 学	67	9	76	北 九 州 大 学	1	1	1	ノートルダム女子大学	1	1	流通科学大学	3	1	4	大阪外語専門学校	1	1	
京都教育大 学	4	4	8	合 計	63	39	101	花園大 学	1	1	帝塚山大 学	3	3	3	大阪工業技術専門	1	1	
京都工芸職業大	5	5	5	私 立 男女	1	1	1	仏教大 学	2	2	奈良大 学	1	2	3	大阪工业生产看護専	1	1	
大阪大 学	51	29	80	幾葉農業園大	1	1	1	立命館大 学	43	13	56	岡山理科大学	1	1	1	大阪兩大医専修	1	1
大阪外国语大	4	2	6	東北福祉大	1	1	1	龍谷大 学	11	12	23	川崎医科学校	1	1	1	大阪女子看護専門	1	1
大阪教育大	8	19	27	青山学院大	1	1	1	大阪医科大学	2	3	5	産業医科学校	1	1	1	大阪リハビリテー	1	1
神戸大 学	49	20	69	共 売 女 学 大	1	1	1	大阪薬科大学	1	1	西南学院大学	1	1	1	医立大阪府看護専	1	1	
神戸大 学	1	1	2	慶應義塾大	43	6	49	大阪学院大	1	1	福岡大 学	1	1	1	大阪府立中央病院	1	1	
奈良教育大	1	1	2	龍谷大 学	1	1	1	大阪経済大	5	1	6	合 計	1	1	1	大阪府立中央病院	1	1
奈良女子大	7	7	14	上智大 学	11	11	11	大阪芸術大学	1	4	5	姫大 学	1	1	1	奈良女子大看護専	1	1
和歌山大 学	2	1	3	成城大 学	1	1	2	大阪工業大学	6	2	8	名古屋大医専修新規	1	1	1	日本大医学部臨管專	1	1
鳥取大 学	2	1	3	春 帝 大 学	2	2	2	大阪薬科大学	2	1	3	京都大医療技術専	1	1	1	エコカル	1	1
鳥 梓 大 学	1	1	2	東大文化大学	1	1	1	大阪薬科大学	2	2	大阪大医療技術専	4	4	4	大阪大医看護学院	1	1	
岡山大 学	2	1	3	中央大 学	6	6	6	大阪薬科大学	3	3	3	神戸大医療技術専	4	4	4	大阪大医看護専門	1	1
広島大 学	1	2	3	津田塾大 学	5	5	5	大阪電気大学	1	1	1	東北大学大医療技術専	1	1	1	行間誠大医専門	1	1
山口大 学	2	2	4	東京成蹊大	2	2	2	大阪薬科大学	7	8	15	青山学院女子短	1	1	1	合 計	1	14
熊 岛 大 学	2	1	3	東京薬科大学	1	1	1	大谷女子大学	1	1	1	京都市立病短	2	2	2	大阪市役所	1	1
香川大 学	2	2	4	東京女子大学	1	1	1	進手門学院大	1	7	8	京都女子大短	15	15	15	合 計	1	1
愛媛大 学	1	1	2	東京造形大学	1	1	1	関西大 学	35	64	109	成安女子短	1	1	1			
高知大 学	1	1	2	東京農業大学	2	1	3	関西医科大学	2	3	5	同志社女子大短	5	5	5			
高知医科大学	1	1	2	東京理科大学	15	2	17	関西外国语大学	1	8	9	蘿谷大 短	1	1	1			

想

題字 阿部俊一先生



一条の光

みちうらもとこ
道浦母都子

(78期)

ものを書く、文章を書いていく過程で、ときどき、縁というか、不思議な巡り合わせといったものを感じるときがある。

北野高校で一学年上であった一人の先輩、今はもう故人となった、その人のことも、そうした意味で、私にとって忘れ得ぬ記憶のひとつと言える。

神田川

その人の死を知ったのはこの1月のことである。

ガス弾の匂い残れる黒髪を洗い梳かして君に逢いやくかつて私が、そううたつたことのあるその人は、私の高校の先輩、東大の生産技研で金属の基礎研究を専攻するひとつ年上の男性だった。大阪での高校生時代、初恋の淡い思いを「何も言わば見つむるのみの我が愛を君知らずして今日も過ぎゆく」とうたい、朝日歌壇に掲載されたことが短歌への出発となった私にとって、その人は言わば、私のうたへの道のきっかけをつくってくれた存在であった。

ピアノひく君が見たしと告げられぬデモの疲れの果てにて逢えば

早大の学生となって上京した私は、時々思い出したように先輩との短い出会いの時間を持った。

だが、折からの政治の季節——。急速に「政治へと傾斜し、生意気盛りだった当時の私は、そんな私を引き止めようとする彼をどうしても受け入れることができず、二度と彼とは会おうとしなかった。

「このたび、息子の遺品を整理しておりましたら、スクラップされたあなたの手紙が見つかりました。つきましてはそれをお便りの主にお返しいただく……」。今年初め、思いがけなく届いた一通の手紙。私の初恋の人の母であるその女性からの手紙には、彼が学究生活の途中、癌(がん)で倒れ、かえらぬ人となったことが告げられていた。それは19年ぶりに知る彼の消息であった。

炎上げ地に舞い落ちる赤旗にわが青春の落日を見る

あの夜、私は御茶ノ水駅で彼を待ち、お茶の水橋を渡って神田川沿いの道を歩いた。安田講堂に静寂が戻って間もない日のことであり、その静けさに抗(あらが)うように催涙ガスのにおいが、白い湯った川面の上にたちこめていた。

今でも大阪から上京するたびに私は御茶ノ水駅に降り立ち、川沿いを歩いてみる。あのころと違って、あっけらかんと明るい街を、半ば眩(まぶ)しみ、半ばどこかで寂しみながら——。

神田川流れ流れて今はもうカルチュラタンを恋うこと無き

(朝日新聞 1988年4月23日「わが歌まくら」)

この一文がキッカケとなって、私はその年の冬、彼の墓に詣でる機会を得た。

「墓前」での再会

3月12日の本欄で、坪内氏が初恋の人(?)に触れて書いている。現在の坪内夫人すなわち初恋の人。ステキな話だなあと思いつつ拝見した。

私の初恋の人は、3年前に死んでいる。そのことを知ったのは昨年の1月。偶然いただいた一通のお便りによってである。手紙の主は、初恋の人の母である女性。彼の死後、遺品の中に残されてあった私から彼宛への手紙を、その主である私にお返ししたいとのお便りであった。

高校の一年先輩であった彼とは、ふとした行き違いから、大学二年の冬以来会うこともなかったが、20年振りに知ったその消息が、彼の死の知らせであったことは、さすがにショックだった。

去年の暮れ近く、彼の三回忌にあたるという日、私は彼の母である女性に伴われ、その墓に詣でた。夫に先立たれ、たった一人で育て上げた一人息子にも先立たれると淡々と語るその女性の寂しさが心に沁みた。そして、もし私の初恋が成就していたとしても、私はその人に先立たれ、この寂しさの中に独り立たねばならなかったのだろうかと奇妙なことを考えもした。彼が生きてさえいれば会うこともなかっただろう二人の女が、こうして向き合っているということも不思議だった。彼は死に、その母と私はいまだ生きているのだという事実が鮮明なまでにそこにはあった。

掲出歌の作者、小野茂樹氏も33歳で故人となってしまった。河出書房に籍を置く編集者であり、将来を嘱望される歌よみの一人であったが、タクシー事故にあり急逝した。

「あの夏の教かぎりなきそしてまたたた一つの表情をせよ」と、かつて恋する人に語りかけた存在が、今は反対に、残された恋人から、そう呼びかけられる死者となつた。(歌人)

(読売新聞 1989年4月18日「女うた男うた」)

そして、その記憶も少し薄らぎ始めた頃、私はまたあらためて、先輩のことを思い出す機会を持ったのである。

たったひとつの表情

一冊の本の紹介が目にとまった。

『ヒマラヤを駆け抜けた男』(佐瀬稔著 東京新聞出版局刊)。表紙には目に焼けた一人の青年の顔。白い歯、どことなく少年っぽく遙か遠くを見ているような目。写真からも気取りのない透明の人柄が伝わってくる。

その人の名は山田昇。ヒマラヤを、いえ世界中の山を駆け抜け、風のように通り過ぎていった。希有のアルビニストの人だという。

山田昇という登山家の名は、この本に出会って初めて知った。だが、優れたアルビニストであり、昨年2月、アラスカ・マッキンリーで行方を絶った一人の青年の存在は、昨年の春以来、ずっと私の心のどこかで確かな存在感をもって生き続けていた。

キッカケとなったのは山陰の町から届いた一通の手紙。いまだお会いすることもない一人の女性からの思いがけないお便りだった。

ここ一年余り、私は大阪読売新聞に小さなコラムを書き続けている。そのときそのときの季節感や社会の動きに合わせ、短歌一首を紹介しながら、800字ばかりのエッセイを記すという連載である。1989年4月16日のテーマは「初恋」。そこで私は、

あの夏の数限りなきそしてまたたった一つの表情をせよ

小野 茂樹

の一首を引き、4年前にガンで亡くなったわが初恋の人の墓を、その人の母である女性に乞われ、共に詣でた折のこと回想した一文を記している。

——去年の暮れ近く、彼の三回忌にあたるという日、私は彼の母である女性に伴われ、その墓に詣でた。夫に先立たれ、たった一人で育てあげた息子にも先立たれたと淡々と語るその女性の寂しさが心に沁みた。そして、もし私の初恋が成就していたとしても、私はその人に先立たれ、この寂しさの中に独り立たねばならなかったのだろうかと奇妙なことを考えました。彼が生きてさえいれば会うこともなかつただろう二人の女が、こうして向き合っているということも不思議だった。彼は死に、その母と私はいまだ生きているのだという事実が鮮明なままでそこにあった。

一通の便りが届いたのはそれから間もなくのことである。新聞社経由で私の元に届けられた手紙にはぶしつけな便りの丁重なおわびが記された後、その女性の大切にしていた人が最近亡くなられたこと。その人は外国の山で行方不明となり、後に仲間の方々たちの捜索の結果、小さな箱の中に収められて日本に戻ってきたこと。大切な人を失くした共通の悲しみを持つ者としてどうしても便りせしにはいられなかったことなどが、凡帳面で美しい文字で淡々と綴られていた。

あ、あの人かも知れない。亡くなられた人の名もプロフィールも、何ひとつ具体的に記されてはいない手紙であったが、私はその少し前、新聞で読んだ高名なアルビニストの遭難の記事を思い出した。きっとあの人だ、この女性の大切な人とは——。自分勝手にそう想像してみたものの、私はそのことに一切触れず、「好きな山を今も歩いてその方と同じ時間を思い出して生きて下さい」という短い返事と自分の本をお送りした。

——実は私、この5月の連休に、山で亡くなつたその人の故郷へ行って参りました。群馬県の小さな街です。——その人の家はりんごを作っています。一面のりんご

畑には、りんごの白い花がほころんでいました。——

しばらくして再び、彼女からの便りが届いた。哀しみを露わに述べる言葉は一言もないが、それだけに独り深く耐えているであろう彼女の苦しみがわかった。

『ヒマラヤを駆け抜けた男』の主人公・山田昇は群馬県沼田市生まれ。りんご農家の末っ子。

私の中で一人のアルビニストと一人の女性が幻のように向き合い、茫然と立ちつくしている。

《あの夏の数限りなきそしてまたたった一つの表情をせよ》

そう、互みに語りかけているかのように。

(『潮』1990年12月号)

人と人との出会いの不思議、運命の糸のようなものだろうが、こんなことが稀にあたりすると、夜の海に小さな石を投げ続けているかのようだ、たまらなく孤独でちっぽけな自分の仕事に、パーと一条の光を投げられかけたかのようだ、そんな、かけがえのない喜びをかみしめる私である。

トルファン 夢と夢寐と

吐魯番(トルファン)、その言葉の持つエキゾチックな響きにひかれ、四年前の秋、シルクロード天山南路の古地、トルファンを訪れた。

東と西が複雑に交叉

中国新疆ウイグル自治区トルファンは、首都北京から西へ約2千キロ。中国全土のちょうどオヘソのような位置にあり、姿もまたオヘソ状に蓮んだ盆地の町だ。黃河流域に居住する漢民族は、古来からこの地を西域侵出の拠点とし、一方、中央アジアを移動する遊牧民族にとつては、中国侵攻の橋頭堡ともいいくべきところ。シルクロードを行き交う様々な民族や、東西の文物が複雑に交叉した地だ。

トルファンで出た光や風、人々の印象は、遠く天山山脈の雪解け水が砂漠を潜り、トルファンの地でオアシスとなって湧き出るというカレーズの水の匂いに象徴される。

肩まで届く髪を、赤や緑のカラフルなスカーフで包んだウイグル族の少女に案内され、町はずれの地下の洞を流れるカレーズの水を、ひとくち口に含んだ私は、その透明な匂いの中でゆっくりと瞼を閉じた。

桃源郷……もし、まだこの地上にも桃源郷と呼べる地があるとすれば、今、私が立っているこのトルファンの地こそ、そう呼ぶにふさわしいところではないか。心の中で呟きながら——。

天山南路 天山北路 カレーズの水のごとくに夢に交叉す

アスター、交河、交昌、吐魯番の旅に見て來し城の

朽ち跡

旅のうた數首しか……

長い憧れの後に、やっと出かけていった旅であったが、戻ってからも、いえ今に至っても、あのときの旅のうた

はたった数首しかできてはいない。

アスター、交河、文昌などトルファン周辺に散在するこの地のかつての征服者の故城や古城跡。いくつもの国の栄華や興亡が、延々と続く砂地の上に、崩れかけた城壁の一部やガレキの山となって朽ち果てている。それらは砂漠を吹く鉛色の風となって、彼らの夢の断片を、たっぷりとわたくしに伝えてくれた。

だが……。

トルファン郊外、西遊記の舞台となった火焰山の一角、ムルトクリ川に臨むベゼクリク千仏洞を訪ねた私は、昼なお暗い石窟のひとつに足を踏み入れた途端、一瞬声を呑んだ。洞窟内部の壁に刻まれた、おびただしい数の仏の絵が、顔を潰され、目をえぐられ、まるで時間の外に置き去られたかのように、取り残されていたから。

旅に見しひとつ哀しみ ベゼクリク目をくり抜かれたる仏のことは

桃源郷とはうって変わった凄まじい無残。私はクラクと目眩に近いものを感じてその場に立ちつくした。イスラムと仏教、偶像礼賛と偶像拒否、ふたつの宗教の苛烈な対立と憎しみの深さをあらためて知る思いだった。

トルファンの地を通り過ぎた様々な国と民族、彼らの夢と夢の殘骸。

意識下にいまだ沈まぬ旅の日がきれぎれ泛ぶ夢屑のごと

矛盾した二つの印象

それらが私の中でいまだにうたとなつて昇華されぬまま、揺れ動いている。

先般、京都国立博物館で開催中の「ドイツ・トルファン探検隊『西域美術展』」に出向いた。ベゼクリク壁画の一部であるという「如来像」の前に立ち、私は私の中の夢の屑をもう一度ひとつひとつ拾い上げるように、トルファンの相矛盾したあの二つの印象を思い返してみた。

トルファン、中央アジアを駆け抜けた数多くの英雄や民族、馬や羊や文物が呼吸した夢の跡地。その夢の軌跡をたどって、ドイツ探検隊も20世紀初頭のシルクロードを探ね、多くの仏像や壁画、出土品をヨーロッパの故国へと持ち帰ったのだろう。

それらのコレクションが、今までシルクロードを西から東へと渡り、アジアの東のはずれの国、日本の地へと運び込まれている。

透明な、雪の匂いのするカレーズの水、しらしらと砂漠の故城を塗でていく鉛色の風。

たとえ、国や民族がどのように移り変わっても、あのトルファンの光や風は、そのこととはかかわりなく悠久の時間の中を静かに載ぎ続けることだろう。

そう考えると、国や人間、歴史や宗教といったものたちさえ、トルファンの光と風の中で、いつしか透明な空気となって溶けていってしまうかのような気がする。

人々の夢と夢の屑の町――。

くれないの網のショールを吐魯番の淨らなる日の追憶とせむ

(朝日新聞 1991年8月10日)

ハンドボール部50周年記念祝賀会

平成3年7月21日千里万博公園にある大阪サンパレスで50周年記念祝賀会を盛大に催した。北野高校の足立校長はじめ顧問・体育の先生方、天王寺高校OBハンドボール・クラブである桃陰クラブ山田總会長・顧問の竜野先生を来賓として迎え、現役選手を招待して200余人が一堂に集い50周年を祝った。これからOB会は、現役選手を強化し、伝統ある北野ハンドボール部が続けて部活動が出来るように援助をおしまぬつもりです。

(第67期 昭和30年卒 神宅寿昭)

北野高校コーラス部フェスティバル'91

創立以来約25年(前身の音楽部の時代を含めると約60年)の歴史をもつ北野高校コーラス部が、去る8月11日(日)箕面市メイプルホールにて、念願の初の単独コンサート「北野高校コーラス部フェスティバル'91」を開催した。当日は約100名の現役部員と卒業生が一堂に会し、現役ステージ、OG・OBステージ、合同ステージの三部構成で、伝統のハーモニーを披露した。メンバー全員が心をひとつにして声高らかに歌いあげるすばらしいコンサートとなり、満員の聴衆からも盛大な拍手を頂いた。終演後は、豊中駅前のホテルアイボリーにてセレブションを開催、コンサートの成功と旧友との久しぶりの再会を祝った。夜の更けるまで、歌声の輪、語らいの輪が続いたようである。なお、これを機に創立以来の活動をまとめた記念誌「わが北野高校コーラス部」を発行、関係者に配布した。コンサート開催にあたり御協力を頂いた関係各位に心よりお礼申し上げ、ご報告とする。

林 和之(86期)

近代文芸社刊「古事記の幻影」

著者:前田文雄(筆名:前田文夫)(57期)

序文:福岡勝雄氏(56期、六稜岡窓会副会長)

題字:森繁久彌氏(45期、北野高校、名誉教諭)

著者の前田文雄君は、学卒後永年商社に勤務されましたが、定年前に勇退して作家活動に入られた、正に異色の著作家です。そして、この著作は「大和太平記」(自費出版)に次ぐ第二作ですが、以下著者の説明により内容をご紹介いたします。

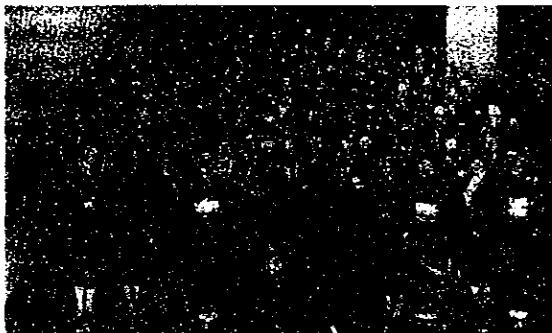
内容:通説とは異なり、持統女帝が吉野の宮で主催した神事劇が「古事記」の原点にはならないことを、日本書紀・万葉集から論証し、筑紫生まれのアマテラス大神と「倭の女王」ヒミコとの関係から始まる古代史のミステリーを、新たに解明する試み。

価格:2,200円(送料込み、今年6月発行済)

お申込み先:郵便振替口座「大阪6-80741 前田文雄」宛、または書店経由で発行所の株式会社近代文芸社(〒106 東京都港区六本木4丁目3-11-606)までお願いいたします。(常任理事 奥田 亘)

六稜同窓会だより

六稜58期会 入学50年記念大会記録



「金鶴輝く日本の はえある光身に受けて……………
紀元は2600年 ああ 一億の胸はなる」の歌声が響く昭和15年の春、4月、その年から実施された口頭試問と内申書のみの受験戦争を勝ち抜いた紅顔の子弟300名が、歴史と伝統を誇る天下の北野中学の門をくぐった。これすなわち、我々六稜58期会の宿縁の始まりである。以来、数えて丁度50年、全員が還暦を過ぎ、大半は第二の職場に移るか、年金生活に入りつつある平成2年秋、恒例の年次大会を中之島の大坂グランドホテルで開催した。

覚え易さと、翌日が祝日ということで、例年11月22日と決めて実施しているのだが、今年度代表世話人西脇伊兵衛君の「縁ありて北野の学舎に相い集い、爾来50年」という言葉を受け、記念行事を実施すべく、年初來世話人十数名が何度も集まり、一杯やりながら企画を練った。

その結果、まず運営資金の募集を始めることとした。我が58期会は、年一回の大会の会費収入で大会費用は勿論のこと通信費ほか全経費を賄い、不足が生ずれば世話人有志で分担する習わしで長年運営して来たが、50年を契機に募金によって運営資金の母体を作り、その利息で通信など事務費を生み出す一方、大会会費は大会費用に全部充当、不足分の穴埋めを有志に頼ることなども避けたい、というのが趣旨である。関係者の努力と、様々な経緯の末、住所判明者228名に呼びかけた結果、161名から263万円の净財が寄せられ、初期の目標を達成した。

次に記念アルバムの編集・発行に取り組むこととした。12年前の大会の折り、一度企画されたのだが都合で見送った。その際、有志が持ち寄った写真百数十枚を全部、仲間の関野君(フォトサロンせきの社長)が複写・ネガ撮りしてくれていたお陰で、「カネと手間」が理由の発行消極論は消えたが、作業に入つてみて、集合写真の一人一人の氏名を確定、表記する段になって関野君他世話人は(折しも夏場にかかり)文字どおり大汗をかいたものだ。苦労のかいもあり、大会の記念品として、みごとなアルバムが完成、好評を博した。

三番目に大会の記念イベントだが、物故した仲間(判明している者だけで47名)の遺族を招待することとした。連絡の取れる12名の方のご遺族に案内し、5名の奥様が出席されたが、心底から喜ばれ、企画は成功した。

四番目の目玉は、大会への家族同伴出席である。親兄弟、妻子不問で大会を賑やかにもり立てたいという狙いで、初めての試みだったのだが、結果は本人出席が東京からの参加12名も含め総計83名の中で、夫人同伴が11名と予想を上回り、年令も影響してか(?)上述の未亡人も交え、短時間に打ち解け、和やかな雰囲気の中で大いに楽しんでもらえた。

このほか、例年どおり恩師もお招きし、前川・水島・馬渕の三先生が元気で出席されたが、レギュラーメンバーとも言うべき大田守先生の欠席は寂しかった。

以上の次第で、大会の総出席者は102名、これに美形のコンパニオン10名が加わり、かつてない大盛況で、さしもの「エンパイアルーム」も熱気に満れ、前年は呑み残した持ち込みの洋酒が、今年は倍の本数を用意したのに早々と底をつく始末に世話人が慌てる一幕もあった。

校歌と三三七拍子で気勢を上げ、次年度代表世話人(松丸哲也君)の挨拶で九時過ぎやっと閉幕したが、記録子の仄聞するところでは20数名が北新地での二次会に参加した由である。また、恒例化しつつある翌日(祝日)の有志懇親会も、本年は夫人4名を含め5組20名の大コンペとなった。(塚崎定一・平成3年2月22日記)

卒業25周年記念同期会

78期(昭和41年卒業)

去る4月28日午後2時より、大阪グランドホテルにおいて、卒業25年目の同期会を開催しました。3年時の担任のうち、ご他界された荻原先生(5年前のこの会にはお元気なお顔を見せてくださったのに)、ご病気の川井先生、豪州在住の足立先生を除く、藤尾、博本、井之元、山根、福田、玉井、金森、寺田の8名の先生がご出席になり、88名の参加者とともに、懐かしくも楽しい2時間余りを過ごしました。

妻の半ばには、25年ぶりに担任を囲んでクラス写真を撮りました。担任欠席の9組(女子クラス)には足立先生の近況を紹介された博本先生が、同じく10組にはリクエストで山根先生が女性に囲まれて、という和気あいあいのシーンも見られました。博本先生には15分授業をしていただきましたが、最近のセンター試験の一問を配られた當ての秀才たちは「こんなの、やさしいだろ」という先生の言葉とはうらはらに、固くなつた顔に愕然とした様子。数学なんて二度と見たくなかったのにという者や、早速解答して「先生、採点してください」という者も。二次会も大盛況でした。

(岸田知子記)

第2回 六稜期別対抗 親善ゴルフ大会

72期 連続優勝 !! 62期4打及ばず!



60期から76期までの17期にわたる期別対抗ゴルフ大会は晴天の8月24日(土)、西宮高原ゴルフ倶楽部に142名(うち、女性6名)が参加(63・64期はオープン参加)、盛大に行われた。

今回はダブルペリア方式による個人戦が新たに加わり、有志の方々からの寄贈賞品が手渡され、大いに盛上った。

懇親会では特別参加の59期、角井寿保氏が乾杯の音頭をとられ、その後、佐藤功競技委員長(62期・JGA規則・アマチュア資格審査委員会副委員長)が、ゴルフのスポーツ性、紳士性を強調、この北野らしいゴルフコンペの永続を切望する旨の講評があった。

団体戦の優勝は、昨年に引きついで72期が獲得、南尚三キャブテンに60期山田文一君より大カップが贈呈された。4打差の2位は62期、3位65期の順となった。

ベストグロス賞は77の好スコアを出した、磯村昭夫君(72期)が手にした。また、ニアピン賞は次の8君。

田中武(61)、川本新一郎(62)、鈴木富美子(67)、深川博夫(69)、伊知地市郎(71)、奥田耕三(72)、藤本紀男(72)、水島肇(76)。

ダブルペリア方式による個人戦では橋部正道君(70)がグロス83、ハンデ12、ネット71で優勝。

ブービー賞の土井正昭君(61)までにぎやかな表彰式が続いた。

第2回 六稜クラブ対抗ゴルフ大会

野球部連続優勝 台風のなか12クラブ参加

季節はずれの台風襲来で、結果41名、12部の参加となり、3名以上出場チーム9部によるコンペとなつたが、大会は成立した。

優勝の栄は、昨年に引き続き、80台3名を揃えた野球部に輝き、以下、陸上部、テニス部、サッカー部、応援団、体操部、ラグビー部、山岳部、演劇部の順となつた。

駐英國大使に就任



北村 汎さん (59回卒)



最高裁判所判事に就任

大西勝也さん (59回卒)

73期 同窓会 開催

昭和36年3月に母校北野高校を卒業した73期生の学年同窓会が、卒業30周年を記念して6月1日(土)に大阪グランドホテルで開催された。母校から肥塚教頭先生(72期)、恩師は村上、玉井、井内、西田、石田、稻葉、村川、吉田、竹尾、藤尾、木川田各先生そして同期生150有余名が出席。会場の関係で全員の撮影が無理なため先生方と各クラス幹事の写真しかとれず。73期の同窓会は5年毎に開催され毎回140名前後が集まる盛況。次回の代表幹事は梶本興亞君。
(73期代表幹事 木村市三)

博本正和先生(数学) 北野高校御退任 謝恩パーティー

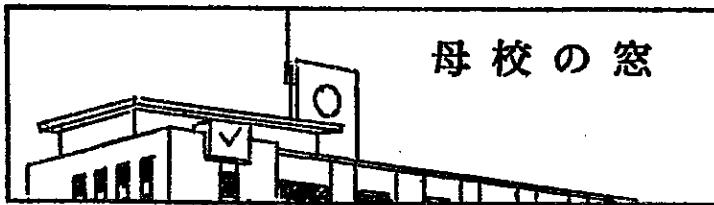
御存じキューピーこと、博本先生がじつに36年の北野高校御勤務を終えられ、去る3月で退職されました。

昭和30年3月、広島大学理学部を御卒業後、4月に北野高校に御赴任になり、爾來36年、一度も他校に移されることなく、文字どおり北野ひとすじの教師生活を送られました。

昭和32年卒業の69期をかわきりに、70、71、72、75、78、81、84、87、90の各期に数学の教鞭をとられ、71、72、78、81、84、87、90の各期では、担任クラスも持たれ、生活指導、進路指導にもあたられました。その御指導ぶりは、一人一人の個性を尊重された、独特の温かさのあるものでした。

クラブ活動にも深い理解を示され、特にバスケットボール部、野球部、ラグビー部の顧問を引き受けられ、選手諸君を温かく指導されました。3年前、ラグビー部が念願の花園出場を果たしたときの先生の喜ぶお姿が忘れられません。

北野が生んだ名物教師キューピー先生の御退職を記念して、去る4月6日(土)夕、日本錦糸倶楽部において謝恩パーティーが行われ、約250人の同窓生が参加しました。



母校の窓

職員異動

御退職

藤枝 葉先生(S63~H3) 校長
柏尾 洋介先生(S41~H3) 社会
博本 正和先生(S30~H3) 数学
藤枝校長先生は現在金蘭千里高校でご教鞭をとられ、柏尾・博本両先生には特別講師として引き続きお世話になっています。
御退職後一年間、特別講師としてお世話になりました西川昭子先生は、この春北野を去られました。

御栄転

原田 彰先生(H1~H3) 教頭
は、清友高校校長にご栄転になりました。

御転任

阪田 善信先生(S50~H3) 数学
名畑 康子先生(S53~H3) 理科
の両先生は、西淀川高校へ
木村 昌義先生(S54~H3) 社会
馬渕 早智先生(S55~H3) 英語
平田 耕治先生(S62~H3) 数学
の三先生は、箕面東高校へ
中村 順子先生(S55~H3) 国語
は、大正高校へ
島川 茂清先生(S57~H3) 英語
は、松原高校へ
近森 啓先生(S61~H3) 国語
は、茨木養護学校へ
阿部 秀実先生(S63~H3) 社会
は、茨田高校へ
足立 和美先生(H1~H3) 養護
は、東寝屋川高校へ
三好 彩久主事(S61~H3) 事務
は、西淀川高校に主査として
それぞれご転勤になりました。阪田
名畑・馬渕の各先生は同窓会のご相
当として、とりわけ阪田先生には同
窓会主任としてご尽力頂きました。

御着任

次の先生方をお迎え致しました。

足立 寛先生(校長) 門真高校長
肥塚 敏彰先生(教頭) 三島高教頭
原田 恵子先生(国語) 高槻北高校
今村 重彦先生(社会) 茨田高校
岡本 浩先生(社会) 八尾北高校
三輪 雅先生(数学) 茨木西高校
岩井 清先生(数学) 北野高校(定)
山中 浩一先生(理科) 大正高校
林 裕子先生(英語) 池田北高校
佐々木信明先生(音楽) 貝塚南高校
足羽 信也主事(事務) 大阪府北部
特定事業建設事務所

御不幸

林 武雄 元校長先生(S23~S37) が、
本年2月お亡くなりました。心より
ご冥福をお祈り申し上げます。
覚井貞一先生(旧職員 S10~S16 国
語) が、S63. 12. 6 にご逝去され
ておられました。夫人からご通知頂
きその際に御遺志として同窓会に10
万円のご寄付を頂きました。ご冥福
をお祈り申し上げますとともにお札
申し上げます。
原 勝己先生(旧職員 S11~S25 社
会) が、本年4月お亡くなりになり
ました。心よりご冥福をお祈り申し
上げます。

御寄付頂きました

山岳部インターハイ出場(男子)
囲碁将棋同好会全国大会出場(女子)
に際し、同窓会よりそれぞれ20万円
5万円のご寄付を頂きました。あり
がとうございました。

第6回文化活動振興賞決定

第6回文化活動振興賞は、昨年3月
の関西アマチュアオーケストラコン
サート(ザ・シンフォニーホール)への
推薦出場をはじめ日常の充実した
活動が認められ、オーケストラ部が
第2回以来2度目の受賞となりま
した。

クラブだより

3. 8. 1 現在

【書道】

- 8月 合宿(二泊三日、於伊勢)
10月 大阪府で書道コンクール出品。
部門大賞(最高賞)受賞。そ
の他府下高校書道教育研究会
賞受賞。学校として努力賞。
11月 近畿高等学校総合文化祭に出
品。半切作品4点、半紙作品
2点。(審査を経て、一校当たり
半切作品は、最高4点まで)
1月 府下高校書道展、市立天王寺
美術館。この内、一点が第15
回全国高校総合文化祭の大阪
府代表作品に選ばれる。(6
点の内の1点として)

4月 合宿(二泊三日、於伊勢)

6月 文化祭作品発表、二教室で。
作品約80点。テーマは北原白
秋。講堂にて席上揮毫

連絡先 今年度こそ、阿部先生を囲
む会を開きたいと思います。部全体
の名簿の整備が急務です。卒業年度
御氏名、住所、電話番号、勤務先等
を御記入の上、御面倒ですが、〒532
淀川区新北野2-5-13北野高校内
書道部名簿係まで御送り下さい。皆
様の御協力をお願いします。

【漫画研究同好会】

90年8月、連合漫画祭参加。12月、
冬の別冊会誌作成。91年2月、校内
展参加。6月、文化祭でイラスト展
示及び別冊会誌発行。7月、連合漫
画祭参加。

連絡先 〒555 大阪市西淀川区出来
島3-3-2-1302 大和田妙
☎06-478-2570

【美術】

第42回高校展出品(8月、天王寺美
術館)、デザイン部門奨励賞受賞。
近畿高等学校総合文化祭出品(3年
藤井、11月)。第1ブロック展出品
(1月)。校内展開催(3月)。文化祭
では1教室ふやし4教室に展示。前
年同様の作者解説を付す。

【ソフトボール】

部別大会、一回戦10-0 淀商業、二回戦1-11阿倍野。第1学区大会予選、14-1 豊中、28-0 豊島、決勝2-5 箕面、8-9 渋谷。研修リーグ大会、7-3 門真南、7-7 淀商業、2-8 日新、3-4 美木多、2-3 箕面、1-3 大塚。A、Bリーグ入替戦、1-11阿倍野、Bリーグ降格。大阪高校総体予選、一回戦9-0 天王寺商業、二回戦1-8 茨木西。

【応援部】

1990年7月、野球部、甲子園大阪府予選の応援。
1991年7月、野球部、甲子園大阪府予選大会の応援。四回戦進出。「濱行」発刊。
毎月「月刊GLORY ROAD」発刊。
連絡先 六稜応援団OB会、〒541 大阪市中央区高麗橋2-34関西ルネッサンス研究所内 06-203-7521

【ハンドボール】

公式戦、秋季総体、29-12 山田、16-22 大商。春季総体、34-6 柴島、11-20 都島工業。天高戦、21-15(新人)、16-22(現役)。
女子、公式戦、新人大会、15-5 池田北、5-32 宣真。インターハイ予選ブロック大会、25-7 池田北、12-6 桜宮、順位決定戦、8-14 福島女子、14-6 刀根山。インターハイ予選中央大会、9-5 門真南、6-26 四天王寺。インターハイ予選中央大会4-8位決定戦、8-18 初芝、6-22 天王寺、4-17 春日丘。
天高戦、30-1(新人)、16-29(現役)。

【山 岳】

大阪高校秋季登山大会、男子団体優勝、女子団体2位。春季大会、男子団体優勝、この夏南アルプスで行われるインターハイに出場(3年)。2年も国体近畿ブロック予選に出場。夏山は槍ヶ岳・薬師岳縦走。
連絡先 〒532 大阪市淀川区東三国4-17-7 メゾンハヤシ201号室 新大阪教育センター内 六稜山岳会事務局 06-395-3521

【水 泳】

公式戦、高校対抗、女400自5位廣瀬。新人戦、男200m11位藤山、増尾、高峰、辻本。女200m13位池田、藤原、市川、廣瀬。男100蝶11位伊藤、女100自3位廣瀬。中央大会、女400個メ5位、女400自7位廣瀬。
定期戦、対市岡勝、対県尼負、対大手前負、三校戦3位。
連絡先 62卒、中野 亘 〒531 大阪市北区長柄東2-1-21-1007 06-352-0921

【サッカー】

公式戦、高校総合体育大会夏季、2-2(PK 0-3) 北千里。北摂リーグ、0-6 池田、2-0 追手門1-0 茨木。冬季大会、1-0 吹田東、0-3 箕面。春季大会、0-0 (PK 2-4 港)。
定期戦、3-0 赤坂、0-3 天王寺。

【合氣道】

7月下旬、天之武産合気塾道場にて合宿。秋・冬は心身の鍛錬と技の修得につとめ、春3月からは文化祭演武大会の練習。

【剣 道】

公式戦、大阪高校総体、男子、対大阪市立勝、対大阪商業負。女子、対狭山負。新人戦予選、男子、対高槻南勝、対浪速工業勝、対大阪青陵勝、対箕面東勝、対高槻負、第三位。
女子、対芥川勝、対春日丘勝、対茨木負、ベスト8。同大会中央大会、男子、対久米田負。女子、対佐野負。全国大会府予選、男子、対関大一勝、対鳥飼勝、対箕面東勝。女子、対箕面東勝、対成蹊勝。同大会中央大会男子、対東百舌鳥勝、対清風負。女子、対桜宮負。

【女子バスケットボール】

公式戦、大阪高校総体83-37鳥飼、28-72 桜津。府立高校大会41-68 春日丘、46-55 島上大冠、32-80 東豊中、33-72 桜津。新人戦60-39 梅花、19-154 薫英。全国高校総体府予選63-51 賢明、79-48 志、51-49 桜塚、39-50 狩山。

【ラグビー】

公式戦、全国大会予選、15-9 奥國、22-0 勝山、6-11 大阪桐蔭。
近畿大会予選、7-0 堺東、21-0 交野、16-3 千里、17-0 四条畷、10-30 大工大(準優勝)。春季大会、41-0 阿武野、7-4 大商大附、52-0 成城、3-0 大商大堺、10-14 島本。
定期戦、19-17 洛北、8-7 神戸、14-10 天王寺。
連絡先 六稜ラガーラブ 〒560 豊中市緑丘2-20-7 自見弘之、06-849-3633 医院06-301-3962

【男子テニス】

秋季学校対抗、本戦2回戦敗退。田村杯、片岡ペスト16。マルコージュニア大阪予選、片岡ペスト32、荒木ペスト64。春季テニス大会、片岡、荒木ペスト32、荒木・片岡組ペスト16。改田本戦出場。

春季団体の部、本戦ペスト8(1R 対池田3-0、2R 対金剛3-0、3R 対近大附0-3)。第20・21回サンケイジュニア、秋季赤坂杯、荒木・片岡組優勝。春季パンクラフト杯、改田・松本組準優勝。

【卓 球】

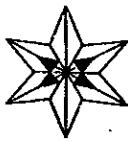
公式戦、北摂大会、男子団体Aチーム優勝。Bチームペスト8。大阪高校総体、男子複、大石・菅浪ペスト20。近畿大会出場。

定期戦、春、5-4 天王寺

文化活動助成金新設

顕著な活動実績を上げた部及び個人に贈られる文化活動振興賞に対し、向う一年間の堅実で意欲的な活動計画を援助・助成する目的で、文化活動振興会の基金を母体として、文化活動助成金が、新設されました。

文化祭当日、本年度の選考会が行われ、申請のあったオーケストラ部、生物研究部、囲碁将棋同好会の三団体が助成金を受給することになりました。



120周年記念事業委員会 発足!!

2年後の1993年(平成5年)、北野高校は創立120周年を迎えます。大阪府下はもちろんのこと、全国でも有数の長い歴史を刻んだ学校として、本校は独自の伝統を育んできました。

この記念すべき年を迎えるにあたり、六稜同窓会では学校側と協力しながら準備を進めて行くことになりました。その推進母体として「120周年記念事業委員会」の発足が、このほど同窓会の常任理事会で可決されました。委員長に鴻池同窓会長、副委員長には足立学校長、および稻畠・河崎両副会長をお願いし、その下に実行委員長とする各専門委員会を設置することと致します。具体的な組織作りはこれからですが、以下の基本方針を取り決め、広く会員の皆様方に御案内することになりました。六稜の諸兄姉の総力を結集して、ぜひとも、本事業を成功させるべく今後とも絶大な御協力と御理解をお願い申し上げます。

基本方針

- 平成5年秋に記念式典(兼、記念総会)、および記念祝賀会を、学校との合同開催で行う。
- 120周年に向けて早急に募金活動に取り組む。募金目的は、単なる行事費用を捻出するためではなく、北野高校120周年にふさわしい記念事業の基金にあてる。
- 平成5年発行をめざして記念名簿を企画し、広く広告協賛金を募る。
- 記念事業については、会員諸兄姉から広くその事業案を募集する。社会性、公共性、国際性の高いもの、あるいは将来にわたって北野高校の教育活動に資するものなど、高邁な見識とビジョンにもとづいたものが望ましい。

アイディア募集!!

北野高校120周年記念事業にふさわしい、斬新、かつ実現可能な企画を、お寄せください。

応募方法 はがき、または封書にて。六稜同窓会事務局宛「120周年記念事業」と朱記のうえ、住所・氏名・卒業期(年)もお忘れなく。

締め切り 1991年(平成3年)11月30日

審査 120周年記念行事委員会で審査します。

発表 採用案については発案者に通知しますが、結果の詳細は本誌次号にて。

年会費は2,000円です!!

よろしくご協力をお願いします!!!

年会費制度の採用によって、随分と同窓会運営に余裕ができ、総会の運営・会報の発行、その他の事業も順調に進めてまいりました。ご協力を感謝し、謹んでお礼申し上げます。納入は郵便振替を利用して下さい。

番号 大阪9-068025 名称 六稜同窓会

▲お手元の六稜会報郵送封筒の表の「印」は平成2年度年会費納入済の印です。